

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

THIS PAGE BLANK (USPTO)

日本国特許
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

庁
REC'D 16 MAR 2001
WIPO PCT

05.03.01

JP01/1692

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application:

2000年 3月17日

出願番号
Application Number:

特願2000-081859

出願人
Applicant(s):

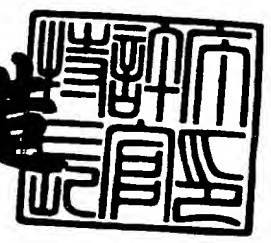
ソニー株式会社

PRIORITY
DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2001年 1月12日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3111346

【書類名】 特許願
【整理番号】 0000141604
【提出日】 平成12年 3月17日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 H04N 1/32
【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

【氏名】 石井 美留香

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社
内

【氏名】 丹下 明

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代表者】 出井 伸之

【代理人】

【識別番号】 100067736

【弁理士】

【氏名又は名称】 小池 晃

【選任した代理人】

【識別番号】 100086335

【弁理士】

【氏名又は名称】 田村 榮一

【選任した代理人】

【識別番号】 100096677

【弁理士】

【氏名又は名称】 伊賀 誠司

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 019530

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9707387

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 投資システム

【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくとも1つの投資対象データを蓄積するサーバ装置と、上記サーバ装置にアクセスして、上記投資対象データをダウンロードするとともに、利用者の操作に応じた投資データを上記サーバ装置に送信する少なくとも1つの第1の端末装置とを備える投資システム。

【請求項2】 上記投資対象データを上記サーバ装置にアップロードする少なくとも1つの第2の端末装置を備え、

上記サーバ装置は、上記第2の端末装置からアップロードされてきた投資対象データを蓄積すること特徴とする請求項1記載の投資システム。

【請求項3】 上記サーバ装置は、上記投資対象データと共に、上記投資対象データの株価データを上記第1の端末装置に送信し、上記第1の端末装置は、利用者の操作に応じた購入株数データを上記サーバ装置に送信することを特徴とする請求項1乃至3のいずれか1項記載の投資システム。

【請求項4】 さらに、第3の端末装置を備え、

上記サーバ装置は、上記第1の端末装置から送信されてくる購入株数データを累積し、得られる総株数が所定値を超えたときに、株価、総株数、投資人数からなる通知データを上記第3の端末装置に送信することを特徴とする請求項1乃至4のいずれか1項記載の投資システム。

【請求項5】 上記投資対象データは、楽曲データであり、上記第1の端末装置は、上記サーバ装置からダウンロードされる楽曲データを再生して、楽曲信号を出力する楽曲データ再生手段を備えることを特徴とする請求項1又は2記載の投資システム。

【請求項6】 上記投資対象データは、アーティストデータであり、上記第1の端末装置の利用者は、上記アーティストデータに基づいて、上記株を購入することを特徴とする請求項1乃至4のいずれか1項記載の投資システム。

【請求項 7】 コンテンツ製作者が製作したコンテンツを蓄積するメモリ手段と、

上記メモリ手段に蓄積されたコンテンツから所望のコンテンツを選択する操作手段と、

上記操作手段にて選択されたコンテンツの一部又は全部を試すための告知手段と、

上記告知手段にて告知されたコンテンツに対して利用者が気の場合には上記コンテンツを記録媒体にダウンロードする記録手段と、

上記ダウンロードを行う際に利用者による第 1 の金額の課金処理を行うか第 1 の金額より多い第 2 の課金処理を行うかの選択によって課金処理を行う課金処理手段とを備える投資システム。

【請求項 8】 利用者によって第 2 の課金処理が選択された場合には後日対価を利用者に対して納入する処理手段を更に備えてなる請求項 7 記載の投資システム。

【請求項 9】 上記処理手段はコンテンツの売上に応じて所定の対価を利用者に対して納入することを特徴とする請求項 8 記載の投資システム。

【請求項 10】 上記対価は金銭であることを特徴とする請求項 8 記載の投資システム。

【請求項 11】 上記対価は上記コンテンツ製作者が新たに製作したコンテンツを無償で提供することを特徴とする請求項 8 記載の投資システム。

【請求項 12】 上記対価は上記コンテンツ製作者の関連商品であることを特徴とする請求項 8 記載の投資システム。

【請求項 13】 上記対価は上記コンテンツ製作者のコンテンツ発表の催しのチケットを無償で提供することを特徴とする請求項 8 記載の投資システム。

【請求項 14】 上記処理手段はコンテンツに対する投資の人気度に応じて所定の対価を利用者に対して納入することを特徴とする請求項 7 記載の投資システム。

【請求項 15】 コンテンツは、文章、音楽、映像の何れかであることを特徴とする請求項 7 記載の投資システム。

【請求項 16】 告知手段は、紙、スピーカ、CRTモニタの何れかであることを特徴とする請求項 7 記載の投資システム。

【請求項 17】 上記コンテンツを記録する記録媒体は、紙、光ディスク、不揮発性半導体メモリの何れかであることを特徴とする請求項 7 記載の投資システム。

【請求項 18】 移動体ネットワークを介して投資対象データの受信するとともに、利用者からの投資のリクエスト信号を送信する第 1 の送受信手段と、上記投資対象データを利用者に対して告知する告知手段と、上記告知手段により告知される上記投資対象データに対応する取引対象への投資を指示する投資指示手段と、上記第 1 の送受信手段を介して受信される割込み情報に応じて上記告知手段により上記利用者に対して該割込みを告知するように制御する第 1 の制御手段とを有する移動体端末装置と、

上記投資指示手段に応じた上記投資のリクエスト信号を受信するとともに、上記投資対象データを上記移動体端末装置に上記移動体ネットワークを介して送信する第 2 の送受信手段と、上記投資のリクエスト信号に応じて、少なくとも、上記利用者識別子、上記投資対象識別子、上記投資対象に対する上記利用者の投資額データを記憶する記憶手段と、上記投資対象に対する投資額に応じて上記投資対象の価値データを演算するとともに、当該価値データに応じて上記割込み情報を上記第 2 の送受信手段を介して上記移動体端末装置に送信する第 2 の制御手段とを有するサーバ装置とを備える投資システム。

【請求項 19】 上記第 2 の制御手段は、上記投資対象の価値データの変動が所定値以上のとき、割込み情報としての投資対象識別子、投資対象価格を上記移動体端末装置に送信することを特徴とする請求項 18 に記載の投資システム。

【請求項 20】 上記移動体端末装置の第 1 の送受信手段は、利用者が以前に指示した上記投資対象への投資を解除するための、売却リクエスト信号を上記第 2 の送受信手段側に送信し、

上記サーバ装置の第 2 の制御手段は、上記売却リクエスト信号に応じて、上記記憶手段に記憶される上記投資対象に対する上記利用者の投資額データが変更されるように制御することを特徴とする請求項 18 に記載の投資システム。

【請求項 2 1】 上記第 1 の制御手段は、表示手段と一体に設けられていることを特徴とする請求項 1 8 記載の投資システム。

【請求項 2 2】 上記移動体ネットワークは、基地局、中央管理センタを含めた携帯型電話システムであることを特徴とする請求項 1 8 記載の投資システム。

【請求項 2 3】 告知手段は、紙、スピーカ、C R T モニタの何れかであることを特徴とする請求項 1 8 記載の投資システム。

【請求項 2 4】 上記投資対象は団体であることを特徴とする請求項 1 8 に記載の投資システム。

【請求項 2 5】 上記投資対象は個人であることを特徴とする請求項 1 8 に記載の投資システム。

【請求項 2 6】 上記投資対象は個人の著作物であることを特徴とする請求項 1 8 に記載の投資システム。

【請求項 2 7】 上記第 2 の送受信手段は、上記投資対象の著作物の売上データを受信し、上記売上データに応じて上記個人の著作物を販売する小売店に対して対価を支払うことを特徴とする請求項 2 4 に記載の投資システム。

【請求項 2 8】 移動体ネットワークを介して投資対象データの受信、及び利用者からの投資のリクエスト信号を送信する第 1 の送受信手段と、上記投資対象データを利用者に対して告知する告知手段と、上記告知手段により告知される上記投資対象データに対応する投資対象への投資を指示する投資指示手段とを有する移動体端末装置と、

上記移動体端末装置の上記利用者の使用状況を記憶する使用状況記憶手段と、上記使用状況記憶手段に記憶される上記利用者の使用状況に応じて上記利用者の口座より所定金額の引き落とし処理が可能な第 1 の制御手段とを有する中央管理センタと、

上記投資指示手段に応じた上記投資のリクエスト信号を受信するとともに、上記投資対象データを上記移動体端末装置に上記移動体ネットワークを介して送信する第 2 の送受信手段と、上記投資のリクエスト信号に応じて、上記利用者識別子、上記投資対象識別子、上記投資対象に対する上記利用者の投資額データを記憶する記憶手段と、上記記憶手段に記憶される上記利用者の投資額データに応じ

て自動的に上記利用者の口座へのアクセスが可能な第2の制御手段とを有するサーバ装置とを備える投資システム。

【請求項29】 上記中央管理センタは、更に、上記利用者に対応して口座用の鍵を記憶する鍵記憶手段を備え、

上記サーバ装置の第2の制御手段は、上記中央管理センタより上記第2の送受信手段を介して上記口座用の鍵を取得し、所定の銀行センタの口座にアクセスすることにより決済処理が可能なことを特徴とする請求項28記載の投資システム。

【請求項30】 上記移動体ネットワークは、基地局、中央管理センタを含めた携帯型電話システムであることを特徴とする請求項27記載の投資システム。

【請求項31】 告知手段は、紙、スピーカ、CRTモニタの何れかであることを特徴とする請求項28記載の投資システム。

【請求項32】 上記投資対象は団体であることを特徴とする請求項28記載の投資システム。

【請求項33】 上記投資対象は個人であることを特徴とする請求項28に記載の投資システム。

【請求項34】 上記投資対象は個人の著作物であることを特徴とする請求項28に記載の投資システム。

【請求項35】 上記第2の送受信手段は、上記投資対象の著作物の売上データを受信し、上記売上データに応じて上記個人の著作物を販売する小売店に対して対価を支払うことを特徴とする請求項32に記載の投資システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術の分野】

本発明は、インターネットを利用した投資システムに関する。すなわち、通信システムを介して、利用者がリアルタイムで株等の投資対象の価値変動を監視できるとともに投資対象の取引が可能な投資システムに関する。

【0002】

【従来技術】

従来、インターネット等を介して株式の売買を行うシステムが知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、インターネットを介して行う株式の売買では、常に利用者がその株価の変動に注目していなければ売買のタイミングを逃してしまう。また、その株価を携帯型電話で表示可能としても利用者がその携帯型電話を常に凝視している必要がある。更に、オンラインでの株式の売買等では株式売買用の口座が必要である。通常、クレジットカード番号を利用者が入力することによりクレジットカードで登録される口座を株式売買用の口座として利用者が利用することが可能であるが、セキュリティ上問題があるとともに、利用者によるクレジット番号の打ち込みという手間が生じる。

【0004】

また、現状音楽、漫画、絵画、小説、映画等のコンテンツを自主制作する人口は増えているがコンテンツを公表する場所や時間は限られており、また、公表されたコンテンツの適切な評価を行える人は少ない。また、従来は、オーディション番組、雑誌でのコンテンツの投稿等の機会はあったが、制作会社及びレコード会社等の審査で決定され必ずしもデビュー後大衆に受け入れられる保証はなかった。更に、上記音楽、漫画、絵画、小説、映画等のコンテンツを制作する個人の才能（タレント）に対して投資を行うという考え及びそのような投資の場も存在しなかった。例えば視聴者が「このアーティスト（曲）はいいなあ。」とっていて、何年か先にこれが大ブレイクすることがあっても、その先見性が視聴者の収入となることはなかった。

【0005】

そこで、本発明は、インターネット等を用いた新規な投資システムを提供することを目的とする。

【0006】

また、本発明は、音楽、漫画、絵画、小説、映画等のコンテンツを制作するア

ーテイストに対してコンテンツ（作品）を投稿できる場所を提供するのみならず、上記コンテンツの販売をする際に通常の課金処理と投資を可能とした投資目的個人の課金処理をコンテンツ購買者に選択させる投資システムを提供することを目的とする。

【 0 0 0 7 】

更に、本発明は、コンテンツの売上と投資金額に応じて固定の対価の支払いをすることで株価指数に基づく変動の対価の演算を行う必要が無く負荷の軽い投資システムを提供することを目的とする。

【 0 0 0 8 】

更にまた、本発明は、移動体通信システムを利用した投資システムを提供することを目的とする。

【 0 0 0 9 】

【課題を解決するための手段】

本発明に係る投資システムは、上述した課題を解決すべく、少なくとも1つの投資対象データを蓄積するサーバ装置と、サーバ装置にアクセスして、投資対象データをダウンロードするとともに、利用者の操作に応じた投資データをサーバ装置に送信する少なくとも1つの第1の端末装置とを備える。

【 0 0 1 0 】

また、本発明に係る投資システムは、上述した課題を解決すべく、コンテンツ製作者が製作したコンテンツを蓄積するメモリ手段と、メモリ手段に蓄積されたコンテンツから所望のコンテンツを選択する操作手段と、操作手段にて選択されたコンテンツの一部又は全部を試すための告知手段と、告知手段にて告知されたコンテンツに対して利用者が気の場合にはコンテンツを記録媒体にダウンロードする記録手段と、ダウンロードを行う際に利用者による第1の金額の課金処理を行うか第1の金額より多い第2の課金処理を行うかの選択によって課金処理を行う課金処理手段とを備える。

【 0 0 1 1 】

更に、本発明に係る投資システムは、上述した課題を解決すべく、移動体ネットワークを介して投資対象データの受信、及び利用者からの投資のリクエスト信

号を送信可能な第1の送受信部と、投資対象データを利用者に対して告知する告知部と、告知部により告知される投資対象データに対応する取引対象への投資を指示する投資指示部と、第1の送受信部を介して受信される割込み情報に応じて告知部により利用者に対して該割込みを告知するように制御する第1の制御部とを有する移動体端末装置と、投資指示部に応じた投資のリクエスト信号を受信するとともに、投資対象データを移動体端末装置に移動体ネットワークを介して送信する第2の送受信部と、投資のリクエスト信号に応じて、少なくとも、利用者識別子、投資対象識別子、投資対象に対する利用者の投資額データを記憶するメモリと、投資対象に対する投資額に応じて投資対象の価値データを演算するとともに、当該価値データに応じて割込み情報を第2の送受信部を介して移動体端末装置に送信する第2の制御部とを有するサーバ装置とを備える。

【0012】

更にまた、本発明に係る投資システムは、上述した課題を解決すべく、移動体ネットワークを介して投資対象データの受信、及び利用者からの投資のリクエスト信号を送信可能な第1の送受信部と、投資対象データを利用者に対して告知する告知部と、告知部により告知される投資対象データに対応する投資対象への投資を指示する投資指示部とを有する移動体端末装置と、移動体端末装置の利用者の使用状況を記憶する使用状況記憶部と、使用状況記憶部に記憶される利用者の使用状況に応じて利用者の口座より所定金額の引き落とし処理が可能な第1の制御部とを有する中央管理センタと、投資指示部に応じた投資のリクエスト信号を受信するとともに、投資対象データを移動体端末装置に移動体ネットワークを介して送信する第2の送受信部と、投資のリクエスト信号に応じて、利用者識別子、投資対象識別子、投資対象に対する利用者の投資額データを記憶するメモリと、記憶部に記憶される利用者の投資額データに応じて自動的に利用者の口座へのアクセスが可能な第2の制御部とを有するサーバ装置とを備える。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、本発明が適用された投資システムについて、図面を参照して説明する。

【0014】

本発明が適用された投資システムは、パーソナルコンピュータ（以下、PCという。）を使った電子音楽配信に関するものであり、投資家がアーティスト又はその作品に投資するシステムである。すなわち、投資家は、ミュージックサイトで登録されている（新人）アーティストの曲を聴き、また、アーティストの容姿を見て、アーティストに関する情報を入手し、多々考慮した結果、「将来は見込める。」と判断したアーティストに投資する。投資後、投資家は、このアーティストの作品、カレンダー等の商品の売り上げが公表され、これを自由に見ることができる。アーティストは、投資された資金を使って宣伝広告、新たな創作活動を行う。

【0015】

図1及び図2に、音楽事務所に無所属の個人アーティストを対象とした投資ビジネスモデルを示す。図1に示す投資システムは、投資対象データとなる音楽データが蓄積されるサーバ装置と、サーバ装置にアクセスして音楽データをダウンロードし、投資家の投資データをサーバ装置に送信するネットユーザ用端末装置と、音楽データをサーバ装置にアップロードする個人アーティスト用端末装置とから構成される。

【0016】

図3に示すように、ネットユーザがレコード会社のホームページにアクセスすると、ネットユーザは、個人アーティストの音楽、容姿、プロフィール等の情報を閲覧することができる。これにより、ネットユーザは、チケット（株券）を購入するか否かを判断する。そして、チケットが購入された場合には、オンデマンド作曲サービスが実施され、サーバ装置には、オンデマンド作曲依頼件数が発表される。すると、データが投資家に通知されるとともに、一定期間毎にオンデマンド作曲サービスによる収益の数%が投資家へ還元される。投資家に収益が還元された場合には、還元通知が投資家に報告される。そして、投資家は、チケットを売却するかどうかの判断をする。すなわち、投資家は、ここでチケットを売りに出すか、更にチケットを購入するかを判断を行うことができる。

【0017】

図4は、個人アーティストがデビューする前に該個人アーティストに対して投資を行う場合の図である。図5を用いて、個人アーティストがデビューするまでを説明すると、先ずネットユーザは、レコード会社等のホームページにアクセスすることにより、ネットマッチングにより自分の好みにあったアーティストを検索する。そして、ネットユーザは、自分の好みにあったアーティストを見つけだしたとき、チケットを購入し、当該アーティストに投資する。アーティストに対して投資が行われたとき、元締め企業がプロバイダーを用いて投資人数、金額、株価を管理する。そして、元締め企業は、投資人数、金額、株価が一定基準を超えたとき、音楽事務所に通達する。そして、ホームページには、音楽事務所に通達されたことが公表されるとともに、音楽事務所に通達されたことが投資家に告知される。

【0018】

音楽事務所は、当該アーティストの音楽を試聴し、当該アーティストをデビューさせるかどうかの判断を行う。そして、音楽事務所がアーティストをデビューさせるとき、当人に連絡がされる。そして、音楽事務所からアーティストへデビューの話がでたことがホームページに公表されるとともに、投資家に告知される。アーティストがデビューを承諾したとき、ホームページには、アーティストがデビューを承諾したことが公表されるとともに、このことが投資家に告知される。そして、デビューを承諾したアーティストは、名乗りを上げたレコード会社が複数存在するときには、権利のオークションが行われ、最も高い値を付けたレコード会社が権利を取得し、当該レコード会社がアーティストをレコードデビューさせる。

【0019】

また、レコード会社がデビューさせないと判断したときやアーティストがデビューを承諾しなかったときは、その旨がサーバ装置に受理される。

【0020】

また、ホームページに音楽事務所に通達されたことが公表されるとともに、音楽事務所に通達されたことが投資家に告知された場合やホームページにアーティ

ストがデビューを承諾したことが公表されるとともに、このことが投資家に告知された場合には、新規投資の受け付けが行われ、この投資情報がオークションの場に提供される。

【0021】

図6は、新人アーティスト自体を投資対象としてチケットを発行する場合の投資システムを示す図である。図7を用いて新人アーティスト自体を投資の対象としチケットを発行する場合について説明すると、ネットユーザがレコード会社のホームページにアクセスすると、近日デビューの新人アーティストの曲、容姿、プロフィール等の情報を見ることができる。そして、投資家は、所望の新人アーティストに対して投資を行うかどうかを判断する。そして、投資家が所望のアーティストのチケットを購入し、当該新人アーティストをデビューさせる。すると、発売楽曲ことの売り上げデータがホームページに発表され、このデータが投資家に通知される。また、ここで、図8に示すように、新規楽曲の販売数と前楽曲の販売数との割合等によってチケットの相場が決定される。そして、新楽曲と前楽曲との販売数量割合が投資家へ通知される。そして、投資家は、この通知に基づいてチケットを売却するか更にチケットを購入するかを決定する。そして、売却する場合には、ホームページ上に売りに出され、購入する場合には、ホームページ上で購入する。

【0022】

図9は、レコード会社より発売される新曲を投資対象としてチケットを発行する場合の投資システムを示す図である。この場合、チケットには、投資の対象となる楽曲が記録される。次いで、図10を用いてレコード会社より発売される新曲を投資対象としてチケットを発行する場合について説明すると、投資家がレコード会社のホームページにアクセスすると、投資家は、新曲を試聴することができるとともに、新曲の入ったチケットの発行を受ける。そして、投資家がチケットを購入すると、ホームページに楽曲売り上げの動向データが発表されるとともに、このデータが投資家に通知される。ここで、チケットの価値は、図11に示すように、楽曲販売数が予め規定された量を超えると、これに比例して上昇する。そして、投資家には、楽曲販売数が規定数を超えたことが通知される。投資家

は、この通知を受けて、チケットを売却するかどうかを判断する。そして、投資家は、更にチケットを購入し、また、売却をすることができる。

【0023】

また、このチケットの発行は、図12のように行うこともできる。すなわち、ネットユーザがサーバ装置にアクセスすると、投資家は、レコード会社のホームページにおいて、当該レコード会社所属のアーティストの新曲情報を閲覧することができる。但し、ここでは、チケットの発行は、未発表曲について行われるため投資家を楽曲の全体を聞くことができず、楽曲の一部又は楽曲そのものを除く楽曲に関連する情報しか見ることはできない。この状態で、投資家は、チケットを購入する。そして、投資家は、チケットを購入した状態で当該チケットより楽曲全部を聞くことができる。そして、ホームページには、楽曲の売り上げの動向データが公表され、これが投資家に通知される。ここで、チケットの価値は、図13に示すように、楽曲販売数が予め規定された量を超えると、これに比例して上昇する。そして、投資家には、楽曲販売数が規定数を超えたことが通知される。投資家は、この通知を受けて、チケットを売却するかどうかを判断する。そして、投資家は、更にチケットを購入し、また、売却をすることができる。

【0024】

また、図14は、チケットに投資家情報を入れる投資システムを示す図である。この場合、図15に示すように、先ず、投資家bさんがアーティストBさんのチケットを購入すると、bさんは購入時に自分の情報がサーバ装置に登録される。また、チケットの購入時には、当該購入チケットにbさん自身の情報及びチケットの購入日時が自動的に記録される。bさんが購入したチケットを売却したとき、bさんが所持していたチケットには、売却の日時が記録される。そして、当該チケットがcさんに購入されると、bさんは購入時に自分の情報がサーバ装置に登録される。また、チケットの購入時には、チケットには、cさん自身の情報及びcさんの購入日時が記録される。すなわち、この場合、チケットには、購入者、購入日時、売却日時等の履歴情報が記録される。

【0025】

次に、音楽、漫画、絵画、小説、映画等のコンテンツを制作するアーティスト

に対してコンテンツ（作品）を投稿できる場所を提供するのみならず、上記コンテンツの販売をする際に通常の課金処理と投資を可能とした投資目的個人の課金処理をコンテンツ購買者に選択させる投資システムについて説明する。

【0026】

図16及び図17に示すように、利用者は、コンテンツ製作者が自主製作した音楽、漫画、絵画、小説、映画写真等のコンテンツを光ディスク、光磁気ディスク、不揮発性メモリ等の記録媒体に記録して自宅のパーソナルコンピュータや家庭内セットトップボックスを経由してサーバ装置にアップロードする。その際にコンテンツのみならず、コンテンツ製作者の身長、体重、写真、過去の経歴等とともにアップロードすることでプロダクションでの審査の参考にさせる。

【0027】

また、別な実施例としてはコンテンツ製作者が自主製作したコンテンツを光ディスク、光磁気ディスク、不揮発性メモリ等の記録媒体に記録して全国にチェーン展開されネットワークで接続された店又は駅等の公共の場に設置されているKIOSK端末装置内のハードディスク等の大容量メモリにアップロードするようにしてもよい。これらKIOSK端末装置にアップロードされたコンテンツはISDN、電話回線、衛星回線、電波等の公衆回線を介してサーバ装置内の大容量メモリに転送する。上記駅、店頭に設置されたkiosk端末装置にアップロードされたコンテンツは自由に全部又は一部を試すことができる。すなわち、音楽、映像、文章を視聴させるとともにコンテンツ製作者の簡単な経歴等を紹介してもよい。才能のみならず容姿等も審査の対象である場合には、上記コンテンツ製作者が入力した経歴が参考になる。

【0028】

ダウンロード目的のユーザ

上記視聴したコンテンツが気に入ったらユーザは、所定の金額を貨幣又はクレジットカード等で支払い記録媒体（CD-R、MD、不揮発性メモリ等）に記録を許可する。これらコンテンツの売上情報は上記公衆回線を介してサーバ装置に蓄積される。ダウンロードされる頻度の高いコンテンツはkiosk端末装置内のハードディスクに蓄積し、頻度の低いコンテンツはサーバ装置内の大容量メモ

リからコンテンツのダウンロードの要求がある度にk i o s k端末装置に送信してもよい。

【0029】

投資目的のユーザ

投資目的のユーザは、K i o s k端末装置でコンテンツやコンテンツ製作者の簡単な経歴を参照して、その才能に対して投資を行うと決定したら、貨幣又はクレジットカードで所定の金額を納金する。納金の際にユーザが後にそのアーティストが爆発的なヒットをした場合に、対価を受け取れるように氏名、住所、銀行振込番号等の投資家識別データを入力するようにする。これら投資家識別データ、コンテンツ識別子、投資額を上記公衆回線を介してサーバ装置に転送し、これらの情報は投資資金管理会社に転送される。投資資金管理会社は投資された資金を管理及び運用する製作会社であってもいいし、管理のみを行うクレジット会社であってもよい。コンテンツ製作者によって製作されたコンテンツは著作権管理会社にて著作権管理される。上記著作権管理会社はレコード会社、出版社、映画会社等である。これら著作権管理会社は上記投資資金管理会社からの投資された資金を元に例えば一定の売上をK I O S K端末装置で上げているコンテンツ製作者のコンテンツの記録媒体（本、CD、DVD、VTR等）での頒布を目的とした制作費に使用したり、コンテンツ製作者、コンテンツの広告宣伝費用と使用する。上記実施例では一定の売上をK I O S K端末装置で上げているコンテンツに対して投資が行われるが、売上は少ないが投資対象での応募が多いコンテンツに対して投資を行ってもよい。これら記録媒体による頒布による売上が一定金額以上になったら著作権管理会社は投資家達に対価を納入する。例えば対価は売上V S投資金額に応じた金額をリターンしてもいいし、コンサート、絵画展、映画上映等のチケットや、希少価値（プレミア）が後々つくことを考えてコンテンツ製作者が投資家だけに製作したコンテンツを配布してもよい。更にコンテンツ製作者に関する商品を配布してもよい。

【0030】

次いで、操作端末装置側の操作手順を図18を参照して説明すると、先ず、ステップS1001において、利用者が操作端末装置でコンテンツを選択すると、

ステップS1002において、端末装置には、視聴モードを選択画面が表示される。そして、利用者が視聴モードを選択したとき、ステップS1003に進み、視聴モードを選択しなかったとき、ステップS1004に進む。

【0031】

利用者が視聴モードを選択したとき、ステップS1003において、操作端末装置は、例えば音楽の一部を再生し、ステップS1004に進む。

【0032】

ステップS1004において、操作端末装置は、購入モードとなり、利用者が購入モードを選択したとき、ステップS1005に進み、選択しなかったとき、ステップS1008に進む。

【0033】

利用者が購入モードを選択したとき、ステップS1005において、操作端末装置には、ユーザIDが入力され、ユーザIDが入力されると、操作端末装置は、ステップS1006に進む。ステップS1006において、操作端末装置は、購入金額を表示するとともに支払方法を表示画面に表示する。そして、利用者により所定の購入金額及び支払方法が入力されると、操作端末装置は、ステップS1007に進む。ステップS1007において、操作端末装置は、表示画面で記録媒体の挿入を促すとともに、記録媒体が所定のスロットに挿入されたときには利用者所有の記録媒体に、利用者が選択したコンテンツをダウンロードする。

【0034】

また、上述したステップS1004において、利用者が購入モードを選択しなかったとき、操作端末装置は、ステップS1008に進む。ステップS1008において、利用者が投資モードを選択すると、ステップS1009において、操作端末装置は、利用者により投資家IDが入力され、ステップS1010において、投資金額が入力される。

【0035】

なお、図19に、コンテンツを購入するときの操作端末装置の表示画面の一例を示し、図20にコンテンツに投資するときの操作端末装置の表示画面の一例を示す。

【0036】

次に、投資資金管理会社側での処理の手順について図21を参照して説明する。ステップS1021において、投資資金管理会社は、コンテンツの売上高を計数する。そして、ステップS1022において、投資資金管理会社は、投資金額の合計を計数する。次いで、ステップS1023において、投資資金管理会社は、投資家の投資金額に応じた対価の分配を決定する。そして、ステップS1024において、投資資金管理会社は、投資家IDに基づく対価を分配する。

【0037】

また、投資資金管理会社は、図22に示すように処理を行うこともできる。先ずステップS1031において、投資資金管理会社は、投資金額を計数する。次いで、ステップS1032において、投資資金管理会社は、投資金額が一定以上になった場合にはステップS1033に進み、投資金額が所定金額に満たない場合にはステップS1031を繰り返す。

【0038】

投資金額が一定以上となった場合、ステップS1033において、投資資金管理会社は、投資金額に応じた対価の分配を決定する。そして、ステップS1034において、投資資金管理会社は、投資家IDに基づく対価を分配する。

【0039】

次に、本発明が適用された移動体通信システムを利用した投資システムについて図面を参照して説明する。

【0040】

図23において、システムの全体構成を示し、図24に移動体通信投資システムを示す。サーバ装置10は、複数のコンテンツが記憶されるとともに、各コンテンツの製作者（アーティスト）、コンテンツの値段、本サービスに参加する利用者ID等が記録される記憶部11が設けられている。この記憶部11に記憶されるデータは、CODEC12よりエンコード、デコードされ、インタフェース13を介して外部と通信される。更に、サーバ装置10は、通常のコンピュータの構成と同じく、ROM14、RAM15を備え、制御部16により、ROM14に記憶されるサーバ装置10の動作を制御するプログラムがRAM15に一旦

ロードされ、RAM15で実行されることにより、全体の動作が制御される。

【0041】

ここで、コンテンツがオーディオ信号の場合は、CODEC12によりATRAC3や、MPEG Audio layer 3等の方式でエンコード、デコードされる。また、コンテンツがビデオ信号の場合はMPEG4、MPEG7等の方式でエンコード、デコードされる。

【0042】

中央管理センタ20は、無線通信ネットワーク全体を管理する。中央管理センタ20は、移動体端末装置の利用者毎の通話時間より演算される通話料金データを記憶するとともに各利用者毎の口座へアクセスするための口座アクセス鍵データを記憶する記憶部21を有する。また、記憶部21に記憶されるデータは、CODEC22によりエンコード、デコードされ、インタフェース23を介して外部と通信される。更に、上述のサーバ装置10と同様に、ROM24、ROM25を備え、制御部26により、ROM24に記憶される全体の動作を制御するプログラムがRAM25に一旦ロードされ、RAM25で実行されることにより、全体の動作制御される。また、インタフェース23は、インタフェース13と専用線30により接続され、デジタルデータの双方向通信を行う。ここで、デジタルデータは、暗号化されていてもよく、アナログデータが双方向通信されてもよい。また、詳述はしないが、本中央管理センタ20は、移動体端末装置、特に携帯型電話等の無線通信ネットワーク全体を管理する制御機能を備える。すなわち、中央管理センタ20は、複数の基地局40を制御し、移動体端末装置50間等の通話を可能とする交換局としての機能を有する。ここでは、移動体端末装置50の利用者の通話料金データを管理するデータのみが関連するため通話時の動作の説明は省略する。

【0043】

移動体端末装置50は、基地局40よりRF信号として伝送されるデータを受信するRF部51を有する。RF部51より受信されるデータは、復調部52でQPSK（4相位相変調）方式等により復調され、チャネルCODEC部53によりTDMA（時分割多元接続）方式によりチャネルコーディングされたデータ

の抽出を行う。以下、移動体端末装置 5 0 のデータ送受信時のデータの流れとともに各構成の説明を行う。

【 0 0 4 4 】

例えば、携帯型電話として利用者が使用しているとき、チャンネルコーディングされたデータより音声データが抽出され、復号部 5 4 により A D P C M 方式等により復号される。次に、D / A 変換器 5 5 が復号された音声データをアナログデータに変換し、スピーカ 5 6 より出力する。

【 0 0 4 5 】

また、サーバ装置 1 0 に記憶されるコンテンツがダウンロードされるとき、チャンネルコーディングされたデータよりコンテンツデータが抽出され、復号部 5 4 は、A T R A C 3、M P 3 方式等により復号する。このとき、制御部 5 7 は、チャンネルコーディングされたデータより抽出されるデータの種別に応じて復号部 5 4 の機能を切り換えるように動作制御する。次に、D / A 変換器 5 5 が復号されたコンテンツデータをアナログデータに変換し、スピーカ 5 6 より出力する。このとき、ヘッドホン端子等より出力するようにしてもよい。

【 0 0 4 6 】

次に、携帯型電話として利用者が移動体端末装置 5 0 を使用するとき、マイク 5 8 からはアナログ音声が入力される。入力されるアナログ音声は、A / D 変換器 5 9 によりデジタル信号に変換され符号化部 6 0 により A D P C M 方式等により符号化される。符号化されたデータは、チャンネル C O D E C 部 5 3 でチャンネルコーディングされ更に、変調部 6 1 により Q P S K 方式等により変調され、R F 部 5 1 より変調されたデータがアンテナを介して送信される。

【 0 0 4 7 】

ここで、上述のサーバ装置 1 0、中央管理センタ 2 0 と同様、制御部 5 7 が全体の動作制御を行う。R O M 6 2 には、移動体端末装置 5 0 の動作制御用の制御プログラムが記憶され、制御プログラムは、一旦 R A M 6 3 にロードされた後、R A M 6 3 上で実行される。更に、指示部 6 4 は、通常の携帯型電話に設けられるテンキー等であり、ここでは、サーバ装置 1 0 に記憶されるコンテンツデータのダウンロード指示、ダウンロードされ一旦 R A M 6 3 に記憶されたコンテンツ

データのアップロード指示等も指示部 6 4 により行う。また、表示部 6 5 は、通常の携帯型電話に設けられる電話番号表示等に加えて、サーバ装置 1 0 に記憶されるコンテンツデータのリスト表示及び利用者がダウンロードしたコンテンツデータの現在のコンテンツ値等の表示を行う。

【 0 0 4 8 】

課金センタ 7 0 は、コンテンツデータを登録するアーティストやアーティストが所属する事務所の口座、コンテンツを C D として販売する小売店の口座及び本無線通信ネットワークを利用して電話を利用する利用者の口座を管理するとともに、各口座に対して課金処理を行う。課金センタ 7 0 は、専用線 8 0 によりサーバ装置 1 0 に接続されているとともに、専用線 9 0 により中央管理センタ 2 0 に接続されている。課金センタ 7 0 は、サーバ装置 1 0 或いは中央管理センタ 2 0 より符号化されたアクセス要求或いは口座アクセス用鍵が送信され、これらをインタフェース 7 1 により受信する。この受信されるデータは暗号化されていてもよい。次に、CODEC 7 2 によりデータが復号され、アクセス要求データの場合は、制御部 7 3 が認証処理を行い、口座アクセス用鍵データの場合は、記憶部 7 4 に記憶される口座管理データにアクセスし、口座管理データを更新する。制御部 7 3 は、更新された口座管理データを元に、銀行センタ 1 3 0 とインタフェース 7 1 を介して送受信することにより所定の銀行口座に対する決済処理がされるように制御する。制御部 7 3 による認証処理の結果は、CODEC 7 2 により符号化されインタフェース 7 1 を介してサーバ装置 1 0 或いは中央管理センタ 2 0 に送信される。また、サーバ装置 1 0 と同様に、ROM 7 5 には、課金センタ 7 0 の全体の動作制御用の制御プログラムが記憶されており、この制御プログラムは一旦 RAM 7 6 にロードされ、RAM 7 6 上で実行される。

【 0 0 4 9 】

課金センタ 7 0 の記憶部 7 4 の口座管理データのうち、アーティストの口座が更新されることにより、1 0 0 に示す配当や自身のコンテンツデータのエントリ費用の決済処理が行われる。また、事務所の口座が更新されることにより、1 1 0 に示す配当や事務所のコンテンツデータのエントリ費用の決済処理が行われる。更に、小売店の口座が更新されることにより、1 2 0 に示す小売店への配当と

いう決済処理が行われる。その他、事務所から小売店へのCDの販売、事務所からアーティストへの給与の支給、配当は本システムと直接関わるものではない。また、小売店或いは事務所からのCDの売り上げデータは、後述するコンテンツをダウンロードした者への配当処理に利用される。

【0050】

次に、図3を用いて移動体通信投資システムの個人アーティストによりサーバ装置10に登録されたコンテンツを移動体端末装置50の利用者がダウンロード及びアップロードする際の動作を図25を用いて説明する。

【0051】

サーバ装置10の制御部16は、ステップS1において、アーティストデータの登録処理を行う。具体的には、個人アーティストが自身のPC等によりサーバ装置10に直接アクセスし、アーティストID、コンテンツをサーバ装置10に送信する。サーバ装置10は、図26(A)に示す記憶部11に記憶されるデータベースにアーティストID、コンテンツID、コンテンツIDがポインタとなり指し示すコンテンツデータ、コンテンツの初期の値段、すなわち、コンテンツの始値(コンテンツ値)を記憶する。

【0052】

サーバ装置10の制御部16は、ステップS2において、アーティストデータを移動体端末装置50に送信する。アーティストデータは、アーティストID、コンテンツID、コンテンツ値である。

【0053】

移動体端末装置50の制御部57は、ステップS3において、アーティストデータの受信待機状態である。制御部57は、アーティストデータを受信完了すると、ステップS4に進み、表示部65にアーティストデータを表示する。

【0054】

制御部57は、ステップS5において、利用者によるコンテンツデータの指示部64によるダウンロード指示を受け付けると、ステップS6に進み、利用者IDとコンテンツIDをサーバ装置10に送信する。制御部57は、ステップS7において、サーバ装置10から送信される利用者ID、コンテンツID、コンテ

ンツデータの受信待機状態となる。受信が完了すると、制御部 57 は、ステップ 8 に進む。また、制御部 57 は、ステップ S 5 において、利用者によるコンテンツデータのダウンロード指示がないと、ステップ S 8 に進む。

【0055】

制御部 57 は、ステップ S 8 において、利用者により以前ダウンロードされ RAM 63 に記憶されるコンテンツをアップロードする指示が指示部 64 より与えられると、ステップ S 9 に進み、利用者 ID とコンテンツをサーバ装置 10 に送信する。制御部 57 は、ステップ S 8 において、利用者によるコンテンツのアップロード指示がないと、ステップ S 10 に進む。

【0056】

制御部 57 は、利用者による終了指示があるか否かを判定し、ないときにはステップ S 4 に戻り、再び同じアーティストデータを表示するか、既に記憶部 11 に記憶されているアーティストデータを表示する。一方、制御部 57 が利用者による終了指示があると判定するときには、移動体端末装置 50 での処理を終了する。

【0057】

サーバ装置 10 の制御部 16 は、ステップ S 11 において、利用者 ID、コンテンツ ID、すなわち、ダウンロードリクエストの受信待機状態である。利用者 ID とコンテンツ ID が受信されないとき、ステップ S 12 に進み、利用者 ID、コンテンツの受信待機状態となる。利用者 ID、コンテンツも受信されないとき、すなわち、アップロードされないとき、ステップ S 11 に戻り、利用者 ID、コンテンツ ID、コンテンツの受信待機状態を続ける。

【0058】

ステップ S 11 において、利用者 ID とコンテンツ ID が受信されると、制御部 16 は、ステップ S 13 に進む。ステップ S 13 において、制御部 16 は、ステップ S 11 により受信された利用者のダウンロードリクエストに応じて利用者 ID、コンテンツ ID、コンテンツデータを移動体端末装置に送信する。送信が完了すると、制御部 16 は、ステップ S 14 に進む。

【 0 0 5 9 】

制御部 1 6 は、ステップ S 1 4 において、図 2 6 (A) に示すデータベースを更新する。例えば、制御部 1 6 は、利用者 I D とコンテンツ I D が受信されるとき (ダウンロード)、コンテンツ I D に対応して利用者 I D を記憶する。また、制御部 1 6 は、ダウンロード数を 1 つインクリメントする。ここでは利用者の一回のダウンロード指示では、コンテンツ 1 つに対して 1 回のダウンロードを許可するように構成しているが、一回のダウンロードで同じコンテンツを、或いは異なるコンテンツを複数ダウンロードできるようにしてもよい。

【 0 0 6 0 】

次に、利用者 I D とコンテンツが受信されるとき (アップロード)、利用者 I D、コンテンツに対応するアップロード数を一つインクリメントする。利用者の一回のアップロード指示では、コンテンツ 1 つに対して 1 回のアップロードを許可するように構成しているが、一回のアップロードで同じコンテンツを複数アップロード、或いは異なるコンテンツを複数アップロードできるようにしてもよい。

【 0 0 6 1 】

制御部 1 6 は、ステップ S 1 4 における投資金額データベースの更新を完了すると、ステップ 1 5 に進む。制御部 1 6 は、ステップ S 1 5 において、所定時間が計数されたか否かを判定する。ここでは、所定時間を 1 0 分とする。すなわち、ステップ S 1 5 において、制御部 1 6 は、1 0 分おきにステップ S 1 6 の処理に進むように動作制御する。

【 0 0 6 2 】

制御部 1 6 は、ステップ S 1 6 において、図 2 6 (A) に示すの投資金額データベースに応じてコンテンツ値を演算するとともに、データベースのコンテンツ値及び売買合計を更新する。

【 0 0 6 3 】

ここで、コンテンツ値計算方法について図 2 7 ~ 図 3 0 に 4 つの例を示す。先ず、図 2 7 に沿ってコンテンツ計算方法を説明する。コンテンツ値計算は、サーバ装置 1 0 の制御部 1 6 が行う。コンテンツ値の始値が 3 0 0 円とする。制御部

16は、上述したステップS13において計数される10分間におけるダウンロード数とアップロード数の数をステップS101で計数する。ダウンロード数とアップロード数が1000と800であるとき、ステップS102において、価格変動値を（ダウンロード数－アップロード数）×定数として演算する。ここでは定数を0.5とすると、価格変動値は+100円となる。

【0064】

次に、制御部16は、ステップS103において、価格変動値が200円より大きいかな否かを判定する。これは、急激な価格変動を防止するためのリミッタである。よって、200円に限定されるものではない。価格変動値は+100円であるので、制御部16は、ステップS104の処理を進め、価格変動値を+100円と設定する。更に、制御部16は、ステップS105に進み、コンテンツ値が $300 + 100 = 400$ 円と演算される。

【0065】

次に、制御部16は、ステップS106において、演算されたコンテンツ値が本日の始値の50%増より大きいかな否かを判定する。これは、一日での急激な価格変動を防止するためのリミッタである。 $400円 < 450円$ であるので、制御部16は、ステップS107に処理を進め、コンテンツ値を400円に決定する。

【0066】

そして、図26（A）に示す投資金額データベースの対応するコンテンツ値、決定されたコンテンツ値での売買合計を更新する。後に、この売買合計の総計は本システムを運営するサーバ装置10管理者の収益となる。図26（A）に示すように本売買でのサーバ装置10管理者の収益は80000円となる。

【0067】

ここでは、価格の上限のリミッタのみを考慮しているが、価格の下限、価格変動の下限をリミットしても構わない。

【0068】

図28に沿って他のコンテンツ計算方法について説明する。ここで、コンテンツ値計算は、同様にサーバ装置10の制御部16が行う。コンテンツ値は、現在

400円である。制御部16は、上述したステップS13において計数される10分間におけるダウンロード数とアップロード数の数をステップS201で計数する。ダウンロード数とアップロード数が1500と300であるとき、ステップS202において、価格変動値を（ダウンロード数－アップロード数）×定数として演算する。ここでは定数を0.5とすると、価格変動値は+600円となる。

【0069】

次に、制御部16は、ステップS203において、価格変動値が200円より大きいかな否かを判定する。価格変動値は+600円であるので、制御部16は、ステップS204に進み、価格変動値を200円に設定し、ステップS205で価格変動値を+200円に決定する。

【0070】

更に、制御部16は、ステップS206に進み、コンテンツ値が $400 + 200 = 600$ 円と演算される。

【0071】

次に、制御部16は、ステップS207において、演算されたコンテンツ値が本日の始値の50%増より大きいかな否かを判定する。 $600\text{円} > 450\text{円}$ であるので、制御部16は、ステップS208に進み、コンテンツ値を450円に設定し、更に、ステップS209に進み、コンテンツ値を450円に決定する。

【0072】

そして、図26(A)の投資金額データベースの対応するコンテンツ値、決定されたコンテンツ値での売買合計を更新する。図26(B)に示すように、本売買でのサーバ装置10管理者の収益は540000円となる。

【0073】

図29に沿って更に他のコンテンツ計算方法を説明する。コンテンツ値計算は、同様にサーバ装置10の制御部16で行う。コンテンツ値は現在450円である。制御部16は、上述したステップS13において計数される10分間におけるダウンロード数とアップロード数の数をステップS301で計数する。ダウンロード数とアップロード数が600と1000であるとき、ステップS302に

において、価格変動値を（ダウンロード数－アップロード数）×定数として演算する。ここでは定数を0.5とすると、価格変動値は－200円となる。

【0074】

次に、制御部16は、ステップS303において、価格変動値が200円より大きいかなかを判定する。価格変動値は－200円であるので、制御部16は、ステップS304に進み、価格変動値を－200円に決定する。

【0075】

更に、ステップS305において、制御部16は、コンテンツ値が $450 - 200 = 250$ 円と演算される。

【0076】

次に、制御部16は、ステップS306において、演算されたコンテンツ値が本日の始値の50%増より大きいかなかを判定する。 $250円 < 450円$ であるので、制御部16は、ステップS307に進み、コンテンツ値を250円に決定する。

【0077】

そして、図26（A）の投資金額データベースの対応するコンテンツ値、決定されたコンテンツ値での売買合計を更新する。図29に示すように、本売買でのサーバ装置10管理者の収益は－100000円となる。

【0078】

図30に沿って更に他のコンテンツ計算方法を説明する。コンテンツ値計算は、同様にサーバ装置10の制御部16で行う。コンテンツ値は現在250円である。制御部16は、上述したステップS13において計数される10分間におけるダウンロード数とアップロード数の数をステップS401で計数する。ダウンロード数とアップロード数が400と1000であるとき、ステップS402において、価格変動値を（ダウンロード数－アップロード数）×定数として演算する。ここでは定数を0.5とすると、価格変動値は－300円となる。

【0079】

次に、制御部16は、ステップS403において、価格変動値が200円より大きいかなかを判定する。価格変動値は－300円であるので、制御部16は、

ステップS404に処理を進め、価格変動値を-300円に決定する。

【0080】

更に、ステップS405に進み、制御部16は、コンテンツ値が $250-300=-50$ 円と演算される。

【0081】

次に、制御部16は、ステップS406において、演算されたコンテンツ値が本日の始値の50%増より大きいかな否かを判定する。 -50 円 <450 円であるので、制御部16は、ステップS407に進み、コンテンツ値をマイナスの価格からフリーダウンロードを許可する0円に変更し決定する。

【0082】

そして、図26に示す投資金額データベースの対応するコンテンツ値、決定されたコンテンツ値での売買合計を更新する。図30に示すように、本売買でのサーバ装置10管理者の収益は0円となる。

【0083】

更に、図25の第1例のフローチャートの説明を続ける。上述のように制御部16によりコンテンツ値演算、データベースの更新が完了すると、処理は、ステップS17に進む。ステップS17において、制御部16は、一ヶ月経ったかな否かを例えば判断する。一ヶ月経っていないとき、制御部16は、ステップS11に処理を戻し、再びダウンロード、アップロードの待機状態を続ける。本フローチャートにおいては、ダウンロード、アップロードの売買及び利用者、アーティストへの配当のための処理を一ヶ月毎に一括で行うように構成されている。ダウンロード、アップロードの売買に関して例えば10分間毎に処理するように構成してもよい。

【0084】

制御部16により一ヶ月目であると判定されると、処理は、ステップS18に進む。制御部16において、サーバ装置10管理者の利益に基づき、利用者及びアーティストへの配当が演算される。これを図31を用いて説明する。ここでは、一つのコンテンツのみによる配当を示し、図27～図30で示した収益の合計520000円を基に演算する。

【0085】

先ず、利用者への配当には、サーバ装置10管理者の利益520000円のうち10%を割りあてる。そして、このコンテンツの現在のダウンロード数（正確には、利用者がそのコンテンツを現在所有する総数）が10000であるとする、そのコンテンツ1つを所有するにつき、5.2円の配当が利用者に割り当てられる。例えば、同じコンテンツを3つ所有する利用者は $5.2 \times 3 = 15.6$ 円の配当を得る。

【0086】

次に、アーティストへの配当としては、サーバ装置10管理者の利益520000円のうち40%を割り当てる。すなわち、アーティストへの配当は、208000円である。すると、サーバ装置10管理者の最終的な利益は260000円となる。

【0087】

次に、ステップS19に進み、制御部16は、利用者、アーティストへの配当演算及びサーバ装置10管理者の利益演算結果に基づき投資金額データベースを更新する。具体的に、制御部16は、サーバ装置利益データ、利用者配当データ、アーティスト配当データを更新する。

【0088】

更に、ステップS20に進み、制御部16は、課金センタ70に、サーバIDと、利用者及びアーティスト口座へのアクセス要求を専用線80を介して送信する。

【0089】

課金センタ70の制御部73は、ステップS21において、アクセス要求受信待機状態である。サーバ装置10よりサーバIDとアクセス要求が受信されると、ステップ22において、制御部73は、サーバIDより認証処理を行う。このとき、予め利用者及びアーティストが本システムのサービス用に銀行口座を指定している。この銀行口座指定処理により課金センタ70の記憶部74には、本システムのサーバIDと、利用者口座用鍵及びアーティスト口座用鍵とが対応して記憶される。このため、制御部73は、受信されるサーバIDと記憶されるサー

バ I D とを照合することにより認証が取れるようになっている。

【0090】

受信されるサーバ I D と記憶されるサーバ I D の対応より認証がとれないとき、制御部 73 は、ステップ S 23 に進み、非認証信号をサーバ装置 10 に送信する。制御部 73 による認証がとれると、ステップ S 24 に進み、利用者口座用鍵とアーティスト口座用鍵がサーバ装置 10 に送信される。

【0091】

サーバ装置 10 の制御部 16 は、ステップ S 25 に進み、課金センタ 70 より非認証信号を受信すると処理を終了する。課金センタ 70 より利用者口座用鍵及びアーティスト口座用鍵を受信すると処理をステップ S 26 に進める。ステップ S 26 において、制御部 73 は、利用者口座用鍵、アーティスト口座用鍵、予めサーバ装置に記憶されているサーバ口座用鍵、売買合計データ、利用者及びアーティスト配当データ、サーバ利益データを課金センタ 70 に送信する。そして、制御部 16 は、送信完了すると処理を終了する。

【0092】

課金センタ 70 の制御部 73 は、ステップ S 27 において、利用者及びアーティスト口座用鍵等の受信待機状態にある。データが受信される処理をステップ S 28 に進め、制御部 73 は、図 26 (B) に示す記憶部 74 に記憶されるデータベースの更新処理を行う。

【0093】

利用者口座用鍵により利用者口座管理データにアクセスし、各利用者毎の売買合計に基いて日付、出入履歴、残金を更新する。更に、利用者への配当データに基づいて日付、出入履歴、残金を更新する。

【0094】

アーティスト口座用鍵によりアーティスト口座管理データにアクセスし、アーティスト毎の配当データに基いて日付、出入履歴、残金を更新する。

【0095】

サーバ口座用鍵によりサーバ口座管理データにアクセスし、サーバ利益に基いて日付、出入履歴、残金を更新する。

【 0 0 9 6 】

更に、口座管理データの更新に基いて制御部 7 3 は、ステップ S 2 9 において、図 2 6 (B) に示す銀行 I D の銀行口座に対する決済処理をインタフェース 7 1 を介して銀行センタ 1 3 0 と送受信することにより自動的に行う。すなわち、口座管理データの更新は、そのまま銀行口座データの更新に反映される。そして、この口座管理データの更新が完了すると、課金センタ 7 0 の制御部 7 3 は、処理を終了する。

【 0 0 9 7 】

上述のように、図 2 5 の処理により、個人アーティストが自分自身が製作したコンテンツをサーバ装置 1 0 に登録し、利用者がそのコンテンツ、例えば楽曲のダウンロード及びアップロードを繰り返す。すると、コンテンツの値段が変動するように制御されるので、ダウンロードされることが多いコンテンツは高額となりコンテンツにプレミアがつく。これより、プレミアがつくようなコンテンツを予想して利用者がダウンロードするという今までにないゲーム性を与えることができる。

【 0 0 9 8 】

更に、利用者によるコンテンツのダウンロード、アップロードの繰り返しより、サーバ装置 1 0 管理者は利益が得られ、その利益のうちの何%かを利用者及びコンテンツを登録するアーティストに配当する決済処理機能を備える。これより、利用者はヒットするアーティストを発掘すると対価を得ることができるというメリットがある。また、アーティストは、ダウンロードが多くなるようなコンテンツを登録すると多くの対価を得ることができる。

【 0 0 9 9 】

次に、図 2 3 のフローチャートを用いて、音楽事務所、レコード会社等の事務所に所属するアーティストによりサーバ装置 1 0 に登録されたコンテンツを移動体端末装置 5 0 の利用者がダウンロード、アップロードする際の動作を説明する。

【 0 1 0 0 】

サーバ装置 1 0 の制御部 1 6 は、ステップ S 5 0 1 において、事務所及びアー

ティストデータの登録処理を行う。具体的には、アーティスト或いは事務所関係者が自身のPC等によりサーバ装置10に直接アクセスし、事務所ID、アーティストID、コンテンツをサーバ装置10に送信する。サーバ装置10は、図33(A)に示す記憶部11に記憶されるデータベースに事務所ID、アーティストID、コンテンツID、コンテンツIDがポインタとなり指し示すコンテンツデータ、コンテンツの初期の値段、すなわち、コンテンツの始値(コンテンツ値)を記憶する。

【0101】

サーバ装置10の制御部16は、ステップS502において、アーティストデータを移動体端末装置50に送信する。アーティストデータは、アーティストID、コンテンツID、コンテンツ値である。移動体端末装置50の制御部57は、ステップS503において、アーティストデータの受信待機状態にある。制御部57は、アーティストデータを受信完了すると、ステップS504に進み、表示部65にアーティストデータを表示する。

【0102】

制御部57は、ステップS505において、利用者によるコンテンツデータの指示部64によるダウンロード指示を受け付けると、ステップS506に進み、利用者IDとコンテンツIDをサーバ装置10に送信する。制御部57は、ステップS507において、サーバ装置10から送信される利用者ID、コンテンツID、コンテンツデータの受信待機状態となる。受信が完了すると、制御部57は、ステップS8に進む。

【0103】

また、制御部57は、ステップS505において利用者によるコンテンツデータのダウンロード指示がないと、S508に進む。制御部57は、ステップS508において利用者により以前ダウンロードされRAM63に記憶されるコンテンツをアップロードする指示が指示部64より与えられると、ステップS509に進み、利用者IDとコンテンツをサーバ装置10に送信する。制御部57は、ステップS508において、利用者によるコンテンツのアップロード指示がないと、S510に進む。

【0104】

制御部57は、利用者による終了指示があるか否かを判定し、ないときには、ステップS504に戻り、再び同じアーティストデータを表示するか、既に記憶部11に記憶されているアーティストデータを表示する。一方、制御部57が利用者による終了指示があると判定するときには、移動体端末装置50での処理を終了する。

【0105】

サーバ装置10の制御部16は、ステップS511において、利用者ID、コンテンツIDの受信待機状態にある。受信されないとき、ステップS512に進み、制御部16は、利用者ID、コンテンツの受信待機状態となる。利用者ID、コンテンツも受信されないとき、ステップS511に戻り、利用者ID、コンテンツID、コンテンツの受信待機状態を続ける。

【0106】

ステップS511において、利用者IDとコンテンツIDが受信されると、制御部16は、ステップS513に進む。ステップS513において、制御部16は、ステップS511において受信された利用者のダウンロードリクエストに応じて利用者ID、コンテンツID、コンテンツデータを移動体端末装置に送信し、送信が完了すると、ステップS514に進む。

【0107】

制御部16は、ステップS514において、図33(A)に示すデータベースを更新する。例えば、利用者IDとコンテンツIDが受信されるとき（ダウンロード）、コンテンツIDに対応して利用者IDを記憶する。また、ダウンロード数を1つインクリメントする。ここでは利用者の一回のダウンロード指示では、コンテンツ1つに対して1回のダウンロードを許可するように構成しているが、一回のダウンロードで同じコンテンツを、或いは異なるコンテンツを複数ダウンロードできるようにしてもよい。

【0108】

次に、利用者IDとコンテンツが受信されるとき（アップロード）、利用者ID、コンテンツに対応するアップロード数を一つインクリメントする。ここでは

利用者の一回のアップロード指示では、コンテンツ1つに対して1回のアップロードを許可するように構成しているが、一回のアップロードで同じコンテンツを複数アップロード、或いは異なるコンテンツを複数アップロードできるようにしてもよい。

【0109】

制御部16は、ステップS514における投資金額データベースの更新を完了すると、ステップS515に進む。制御部16は、ステップS515において、所定時間が計数されたか否かを判定する。ここでは、所定時間を10分とする。すなわち、ステップS515では、制御部16が10分おきにステップS516の処理に進むように動作制御する。

【0110】

制御部16は、ステップS516において、図33(A)に示す投資金額データベースに応じてコンテンツ値を演算するとともに、データベースのコンテンツ値、及び売買合計を更新する。ここで、コンテンツ値計算方法は図27～図30に示す方法と同様である。

【0111】

制御部16によりコンテンツ値演算、データベースの更新が完了すると、処理はステップS517に進む。ステップS517において、制御部16は、一ヶ月経ったか否かを例えば判断する。一ヶ月経っていないとき、制御部16は、ステップS511に戻り、再びダウンロード、アップロードの待機状態を続ける。

【0112】

本フローチャートにおいては、ダウンロード、アップロードの売買及び利用者、アーティストへの配当のための処理を一ヶ月毎に一括で行うようにしている。ダウンロード、アップロードの売買に関して例えば10分間毎に処理するように構成してもよい。

【0113】

制御部16により一ヶ月目であると判定されると、処理は、ステップS518に進む。制御部16において、サーバ装置10管理者の利益に基づき、利用者及び事務所への配当が演算される。これを図34を用いて説明する。ここでは一つ

のコンテンツのみによる配当を示し、図27～図30で示した収益の合計520000円を基に演算する。ここで、事務所への配当の演算は、当然複数のコンテンツのサーバ装置10管理者の利益より分配するようにしてもよい。

【0114】

先ず、利用者への配当としてはサーバ装置10管理者の利益520000円のうち10%を割りあてる。そして、そのコンテンツの現在のダウンロード数（正確には、利用者がそのコンテンツを現在所有する総数）が10000であるとすると、そのコンテンツ1つを所有するにつき、5.2円の配当を利用者に割り当てる。例えば、同じコンテンツを3つ所有する利用者は $5.2 \times 3 = 15.6$ 円の配当を得る。

【0115】

次に、事務所への配当としてはサーバ装置10管理者の利益520000円のうち40%を割り当てる。すなわち、事務所への配当は208000円である。すると、サーバ装置10管理者の最終的な利益は260000円となる。

【0116】

次に、ステップS519に進み、制御部16は、利用者、アーティストへの配当演算及びサーバ装置10管理者の利益演算結果に基づき投資金額データベースを更新する。具体的には、サーバ利益データ、利用者配当データ、事務所配当データを更新する。

【0117】

更に、ステップS520に進み、制御部16は、課金センタ70に、サーバIDと、利用者及び事務所口座へのアクセス要求を専用線80を介して送信する。課金センタ70の制御部73は、ステップS521において、アクセス要求受信待機状態にある。サーバ装置10よりサーバIDとアクセス要求が受信されると、ステップ522において、制御部73は、サーバIDより認証処理を行う。このとき、予め利用者及び事務所が本システムのサービス用に銀行口座を指定している。この銀行口座指定処理により課金センタ70の記憶部74には、本システムのサーバIDと、利用者口座用鍵及び事務所口座用鍵とが対応して記憶される。このため、制御部73は、受信されるサーバIDと記憶されるサーバIDとを

照合することにより認証が取れるように構成されている。

【0118】

受信されるサーバIDと記憶されるサーバIDの対応より認証がとれないときには、ステップS523に進み、制御部73は、非認証信号をサーバ装置10に送信する。制御部73による認証がとれると、ステップS524に進み、利用者口座用鍵と事務所口座用鍵がサーバ装置10に送信される。

【0119】

サーバ装置10の制御部16は、ステップS525に進み、課金センタ70より非認証信号を受信すると処理を終了する。制御部16は、課金センタ70より利用者口座用鍵及び事務所口座用鍵を受信すると処理をステップS526に進める。ステップS526において、制御部73は、利用者口座用鍵、事務所口座用鍵、予めサーバに記憶されているサーバ口座用鍵、売買合計データ、利用者及び事務所配当データ、サーバ利益データを課金センタ70に送信する。制御部16は送信完了すると処理を終了する。

【0120】

課金センタ70の制御部73は、ステップS527において、利用者及び事務所口座用鍵等の受信待機状態にある。データが受信される処理をステップS528に進め、制御部73は、図33(B)に示す記憶部74に記憶されるデータベースの更新処理を行う。

【0121】

利用者口座用鍵により利用者口座管理データにアクセスし、各利用者毎の売買合計に基いて日付、出入履歴、残金を更新する。更に、利用者への配当データに基づいて日付、出入履歴、残金を更新する。事務所口座用鍵により事務所口座管理データにアクセスし、各事務所毎の配当データに基いて日付、出入履歴、残金を更新する。サーバ口座用鍵によりサーバ口座管理データにアクセスし、サーバ利益に基いて日付、出入履歴、残金を更新する。

【0122】

更に、口座管理データの更新に基いて制御部73は、ステップS529において、図33(B)に示す銀行IDの銀行口座に対する決済処理をインタフェース

71を介して銀行センタ130と送受信することにより自動的に行う。すなわち、口座管理データの更新はそのまま銀行口座データの更新に反映される。そして、この口座管理データの更新が完了すると課金センタ70の制御部73は処理を終了する。

【0123】

上述のように、図32の処理により、事務所が、或いはその事務所に所属するアーティストが、製作したコンテンツをサーバ装置10に登録し、利用者がそのコンテンツ、例えば楽曲のダウンロード及びアップロードを繰り返す。すると、コンテンツの値段が変動するように制御されるので、ダウンロードされることが多いコンテンツは高額となりコンテンツにプレミアがつく。これより、プレミアがつくようなコンテンツを予想して利用者がダウンロードするという今までにないゲーム性を与えることができる。

【0124】

更に、利用者によるコンテンツのダウンロード、アップロードの繰り返しより、サーバ装置10の管理者は、利益が得られ、その利益のうちの何%かを利用者及びコンテンツを登録するアーティストに配当する決済処理機能を備える。これより、利用者はヒットするアーティストを発掘すると対価を得ることができるというメリットがある。また、事務所は、ダウンロードが多くなるようなコンテンツを登録すると多くの対価を得ることができる。更に、図23に示すように事務所からアーティストに給与とともにその配当を分配するようにすればアーティストにとっても大きな利益を得ることが可能である。

【0125】

次に、図35を用いて、音楽事務所、レコード会社等の事務所に所属するアーティストによりサーバ装置10に登録されたコンテンツを移動体端末装置50の利用者がダウンロード、アップロードする際の動作について説明する。本例は、小売店或いは音楽事務所から提供される売上データに応じて利用者、事務所、小売店への配当を行うものである。

【0126】

サーバ装置10の制御部16は、ステップS601において、事務所及びアー

ティストデータの登録処理を行う。具体的には、アーティスト或いは事務所関係者が自身のPC等によりサーバ装置10に直接アクセスし、事務所ID、アーティストID、コンテンツをサーバ装置10に送信する。サーバ装置10は、図36(A)に示す記憶部11に記憶されるデータベースに事務所ID、アーティストID、コンテンツID、コンテンツIDがポインタとなり指し示すコンテンツデータ、コンテンツの初期の値段、すなわち、コンテンツの始値(コンテンツ値)を記憶する。

【0127】

サーバ装置10の制御部16は、ステップS602において、アーティストデータを移動体端末装置50に送信する。アーティストデータは、アーティストID、コンテンツID、コンテンツ値である。

【0128】

移動体端末装置50の制御部57は、ステップS603において、アーティストデータの受信待機状態にある。制御部57は、アーティストデータを受信完了すると、ステップS604に進み、表示部65にアーティストデータを表示させる。

【0129】

制御部57は、ステップS605において、利用者によるコンテンツデータの指示部64によるダウンロード指示を受け付けると、ステップS606に進み、利用者IDとコンテンツIDをサーバ装置10に送信する。制御部57は、ステップS607において、サーバ装置10から送信される利用者ID、コンテンツID、コンテンツデータの受信待機状態となる。受信が完了すると、制御部57は、ステップS608に進む。

【0130】

また、制御部57は、ステップS605において、利用者によるコンテンツデータのダウンロード指示がないと、S608に進む。制御部57は、ステップS608において利用者により以前ダウンロードされRAM63に記憶されるコンテンツをアップロードする指示が指示部64より与えられると、ステップS609に進み、利用者IDとコンテンツをサーバ装置10に送信する。制御部57は

、ステップS608において利用者によるコンテンツのアップロード指示がないと、S610に進む。

【0131】

制御部57は、利用者による終了指示があるか否かを判定し、ないときには、ステップS604に戻り、再び同じアーティストデータを表示するか、既に記憶部11に記憶されているアーティストデータを表示する。一方、制御部57が利用者による終了指示があると判定するときには移動体端末装置50での処理を終了する。

【0132】

サーバ装置10の制御部16は、ステップS611において、図36(A)のデータベースに記録されるコンテンツIDの売上データの受信待機状態にある。ここで、売上データは、音楽事務所、或いは小売店がPC等によりサーバ装置10に直接アクセスし、小売店ID(或いは音楽事務所ID)、コンテンツIDと売上データをサーバ装置10に送信する。ステップS611において、制御部16が小売店ID、コンテンツID、と各コンテンツIDに対応する売上データを受信するとS612に進む。

【0133】

サーバ装置10の制御部16は、ステップS612において利用者ID、コンテンツIDの受信待機状態にある。受信されないとき、ステップS613に進み、利用者ID、コンテンツの受信待機状態となる。利用者ID、コンテンツも受信されないとき、ステップS612に戻り、利用者ID、コンテンツID、コンテンツの受信待機状態を続ける。

【0134】

ステップS612において、利用者IDとコンテンツIDが受信されると、制御部16はステップS614に処理を進める。ステップS614において、制御部16は、ステップS612により受信された利用者のダウンロードリクエストに応じて利用者ID、コンテンツID、コンテンツデータを移動体端末装置に送信する。送信が完了すると、制御部16は処理をS615に進める。制御部16は、ステップS615において、図11Aに示すデータベースを更新する。例え

ば、利用者IDとコンテンツIDが受信されるとき（ダウンロード）、コンテンツIDに対応して利用者IDを記憶する。また、ダウンロード数を1つインクリメントする。本実施の形態では利用者の一回のダウンロード指示では、コンテンツ1つに対して1回のダウンロードを許可するように構成しているが、一回のダウンロードで同じコンテンツを、或いは異なるコンテンツを複数ダウンロードできるようにしてもよい。

【0135】

次に、利用者IDとコンテンツが受信されるとき（アップロード）、利用者ID、コンテンツに対応するアップロード数を一つインクリメントする。ここでは利用者の一回のアップロード指示では、コンテンツ1つに対して1回のアップロードを許可するように構成しているが、一回のアップロードで同じコンテンツを複数アップロード、或いは異なるコンテンツを複数アップロードできるようにしてもよい。更に、制御部16は、ステップS610において受信された小売店ID、売上データをコンテンツIDに対応して記憶させる。

【0136】

制御部16は、ステップS615における投資金額データベースの更新を完了すると、ステップ616に進む。制御部16は、ステップS616において、所定時間が計数されたか否かを判定する。ここでは、所定時間を10分とする。すなわち、ステップS616では、10分おきにステップS617の処理に進むように制御部16は動作制御する。

【0137】

制御部16は、ステップS617において、図36（A）の投資金額データベースに応じてコンテンツ値を演算するとともに、データベースのコンテンツ値、及び売買合計を更新する。ここで、コンテンツ値計算方法は図27～図30に示す方法と同様である。

【0138】

制御部16によりコンテンツ値演算、データベースの更新が完了すると、処理はステップS618に進む。ステップS618において、制御部16は、一ヶ月経ったか否かを例えば判断する。一ヶ月経っていないとき、制御部16は、ステ

ップS612に処理を戻し、再びダウンロード、アップロードの待機状態を続ける。

【0139】

本フローチャートにおいては、ダウンロード、アップロードの売買及び利用者、事務所、小売店への配当のための処理を一ヶ月毎に一括で行うように構成されている。ダウンロード、アップロードの売買に関して例えば10分間毎に処理するように構成してもよい。

【0140】

制御部16により一ヶ月目であると判定されると、処理はステップS619に進む。

【0141】

制御部16において、サーバ装置10の管理者の利益に基づき、利用者及び事務所への配当が演算される。図37を用いて説明する。ここでは一つのコンテンツのみによる配当を示し、図27～図30で示した収益の合計520000円と、売上利益を480000円として演算する。ここで、事務所への配当の演算は、当然複数のコンテンツのサーバ装置10管理者の利益より分配するようにしてもよい。

【0142】

先ず、利用者への配当としてはサーバ装置10管理者の利益520000円の10%と、そのコンテンツの売上利益の10%をサーバ装置10管理者利益から割りあてる。そして、そのコンテンツの現在のダウンロード数（正確には、利用者がそのコンテンツを現在所有する総数）が10000であるとする、そのコンテンツ1つを所有するにつき、10円の配当を利用者に割り当てる。例えば、同じコンテンツを3つ所有する利用者は $10 \times 3 = 30$ 円の配当を得る。

【0143】

次に、事務所への配当としてはサーバ装置10管理者の利益520000円のうち40%と、売上利益の10%を割り当てる。すなわち、事務所への配当は $208000 + 48000$ 円である。

【0144】

更に、小売店への配当としてはサーバ装置10管理者の利益520000円のうち10%と、売上利益の10%を割り当てる。すなわち、事務所への配当は52000+48000円である。すると、サーバ装置10管理者の最終的な利益は64000円となる。

【0145】

次に、ステップS620に進み、制御部16は、利用者、事務所、小売店への配当演算、及びサーバ装置10管理者の利益演算結果を基に投資金額データベースを更新する。具体的には、サーバ利益データ、利用者配当データ、事務所配当データ、小売店配当データを更新する。

【0146】

更に、ステップS621に進み、制御部16は、課金センタ70に、サーバIDと、利用者、事務所、及び小売店口座へのアクセス要求を専用線80を介して送信する。

【0147】

課金センタ70の制御部73は、ステップS622において、アクセス要求受信待機状態である。サーバ装置10よりサーバIDとアクセス要求が受信されると、ステップ623において制御部73はサーバIDより認証処理を行う。このとき、予め利用者、事務所、小売店が本システムのサービス用に銀行口座を指定している。この銀行口座指定処理により課金センタ70の記憶部74には、本システムのサーバIDと、利用者口座用鍵、事務所口座用鍵、小売店口座用鍵とが対応して記憶される。そのため、制御部73は受信されるサーバIDと記憶されるサーバIDとを照合することにより認証が取れるように構成されている。

【0148】

受信されるサーバIDと記憶されるサーバIDの対応より認証がとれないとき、ステップS624に進み、制御部73は、非認証信号をサーバ装置10に送信する。制御部73による認証がとれると、ステップS625に進み、利用者口座用鍵、事務所口座用鍵、及び小売店口座用鍵がサーバ装置10に送信される。

【0149】

サーバ装置10の制御部16は、ステップS626に進み、課金センタ70より非認証信号を受信すると処理を終了する。課金センタ70より利用者口座用鍵、事務所口座用鍵、小売店口座用鍵を受信すると処理をステップS627に進める。ステップS627において、制御部73は、利用者口座用鍵、事務所口座用鍵、小売店口座用鍵、予めサーバに記憶されているサーバ口座用鍵、売買合計データ、利用者、事務所、及び小売店配当データ、サーバ利益データを課金センタ70に送信する。制御部16は送信完了すると処理を終了する。

【0150】

課金センタ70の制御部73は、ステップS628において利用者、事務所、及び小売店口座用鍵等の受信待機状態にある。データが受信される処理をステップS629に進め、制御部73は、図36(B)に示す記憶部74に記憶されるデータベースの更新処理を行う。利用者口座用鍵により利用者口座管理データにアクセスし、各利用者毎の売買合計に基いて日付、出入履歴、残金を更新する。更に、利用者への配当データに基づいて日付、出入履歴、残金を更新する。事務所口座用鍵により事務所口座管理データにアクセスし、各事務所毎の配当データに基いて日付、出入履歴、残金を更新する。小売店口座用鍵により小売店口座管理データにアクセスし、各事務所毎の配当データに基いて日付、出入履歴、残金を更新する。サーバ口座用鍵によりサーバ口座管理データにアクセスし、サーバ利益に基いて日付、出入履歴、残金を更新する。

【0151】

更に、口座管理データの更新に基いて制御部73は、ステップS630において図11Bに示す銀行IDの銀行口座に対する決済処理をインタフェース71を介して銀行センタ130と送受信することにより自動的に行う。すなわち、口座管理データの更新はそのまま銀行口座データの更新に反映される。

【0152】

そして、この口座管理データの更新が完了すると課金センタ70の制御部73は処理を終了する。

【 0 1 5 3 】

上述のように、図 3 5 の処理により、事務所が、或いはその事務所に所属するアーティストが、製作したコンテンツをサーバ装置 1 0 に登録し、利用者がそのコンテンツ、例えば楽曲のダウンロード及びアップロードを繰り返す。すると、コンテンツの値段が変動するように制御されるので、ダウンロードされることが多いコンテンツは高額となりコンテンツにプレミアがつく。これより、プレミアがつくようなコンテンツを予想して利用者がダウンロードするという今までにないゲーム性を与えることができる。

【 0 1 5 4 】

更に、利用者によるコンテンツのダウンロード、アップロードの繰り返しより、サーバ装置 1 0 管理者は利益が得られる。また、第 3 例では、制御部 1 6 は、メディアに記録されたコンテンツの売上データによる売上利益に応じて利用者、事務所、小売店への配当を演算し自動決算処理を行う。これより、利用者はヒットするアーティストを発掘すると対価を得ることができるというメリットがある。また、事務所は、ダウンロード、或いは売上が多くなるようなコンテンツを登録すると多くの対価を得ることができる。更に、小売店は多く売れば売上利益だけでなく更にサーバ装置 1 0 管理者から配当を得ることが可能である。更に、図 2 3 に示すように事務所からアーティストに給与とともにその配当を分配するようにすればアーティストにとっても大きな利益を得ることが可能である。

【 0 1 5 5 】

なお、以上の例では、金融商品の取引としてコンテンツのアップロード、ダウンロードとしているが、通常の株価取引、先物取引等のような取引であってもよい。また、以上の例では、コンテンツ値が変動するようにしたが、コンテンツ値の価格は固定にし、売り上げに応じて配当が演算されるようにしてもよい。更には、以上の例では、移動体端末装置として携帯型電話を例としたが移動体であればよく、自動車、PDA、携帯コンピュータ等であってもよい。

【 0 1 5 6 】

また、第 2 の実施例の告知手段は表示及び振動であったが、音声でもかまわない。例えば、予めメモリに記憶されるピープ音で告知してもよいし、割込み情報

とともに送信されるコンテンツIDに応じてそのコンテンツ（楽曲）を再生するようにしてもよい。

【0157】

【発明の効果】

本発明は、音楽、漫画、絵画、小説、映画等のコンテンツを制作するアーティストに対してコンテンツ（作品）を投稿できる場所を提供するので、優れた才能の持ち主を発掘することができる。更に上記コンテンツの販売をする際に通常の課金処理と投資を可能とした投資目的個人の課金処理をコンテンツ購買者に選択させることで、優れた才能の持ち主に対して投資を行うことでアーティストが売れた場合に投資に対する対価を支払うことで活発なコンテンツ流通を行うことができる。更に本発明は、コンテンツの売上と投資金額に応じて固定の対価の支払いをすることで株価指数に基づく変動の対価の演算を行う必要が無く負荷の軽いシステムを提供することができる。更に対価の納入の方法として、金銭の授受のみならず品物（アーティストのコンテンツの発表の場のチケット、投資家限定のコンテンツ、アーティスト関連商品）を納入することで音楽市場での活性化を図ることができる。

【0158】

また、本発明によれば、オンライン取引が可能な移動体端末装置に所望の金融商品の価値変動に応じて利用者に告知する告知手段を備えることにより、金融取引のタイミングを利用者が逃さないようにすることができる。また、通話料金用の口座を自動的に金融商品売買用の口座に割り当てることが可能なため、利用者の口座の登録処理の手間が省けるとともにセキュリティ上非常に安全な無線投資システムを提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

音楽事務所に無所属の個人アーティストを対象とした投資システムを示す図である。

【図2】

音楽事務所に無所属の個人アーティストを対象とした投資システムを示す図で

ある。

【図3】

上記図1及び図2に示す投資システムのフローチャートである。

【図4】

個人アーティストがデビューする前に該個人アーティストに対して投資を行う場合の投資システムを示す図である。

【図5】

アーティストがデビューするまでの手順を示したフローチャートである。

【図6】

新人アーティスト自体を投資対象としてチケットを発行する場合の投資システムを示す図である。

【図7】

新人アーティスト自体を投資対象とした場合のチケットを発行するまでのフローチャートである。

【図8】

チケットの相場を決定する方法を説明する図である。

【図9】

レコード会社より発売される新曲を投資対象としてチケットを発行する場合の投資システムを示す図である。

【図10】

レコード会社より発売される新曲を投資対象としてチケットを発行する場合のフローチャートである。

【図11】

楽曲販売数とチケットの価値との関係を説明する図である。

【図12】

レコード会社より発売される新曲を投資対象としてチケットを発行する場合のフローチャートである。

【図13】

楽曲販売数とチケットの価値との関係を説明する図である。

【図14】

チケットに投資家情報を入れる投資システムを示す図である。

【図15】

チケットに投資家情報を入れる投資システムのフローチャートである。

【図16】

購入時の金銭の流れを説明する図である。

【図17】

投資時の金銭の流れを説明する図である。

【図18】

端末装置側での操作のフローチャートである。

【図19】

購入時の端末装置の操作画面を示す図である。

【図20】

投資時の端末装置の操作画面を示す図である。

【図21】

投資資金管理会社側での処理のフローチャートである。

【図22】

投資資金管理会社側での処理の他の例を示すフローチャートである。

【図23】

システムの全体構成を示す図である。

【図24】

移動体通信投資システムのブロック図である。

【図25】

移動体通信投資システムの第1例のフローチャートである。

【図26】

移動体通信投資システムの第1例のサーバに記憶されるデータベース構成を示す図である。

【図27】

移動体通信投資システムの第1例のサーバの制御手段により演算される投資対

象の価値データを演算する方法を示す図である。

【図 2 8】

移動体通信投資システムの第 1 例のサーバの制御手段により演算される投資対象の価値データを演算する方法を示す図である。

【図 2 9】

移動体通信投資システムの第 1 例のサーバの制御手段により演算される投資対象の価値データを演算する方法を示す図である。

【図 3 0】

移動体通信投資システムの第 1 例のサーバの制御手段により演算される投資対象の価値データを演算する方法を示す図である。

【図 3 1】

移動体通信投資システムの第 1 例のサーバの制御手段により演算される配当演算方法を示す図である。

【図 3 2】

移動体通信投資システムの第 2 例のフローチャートである。

【図 3 3】

移動体通信投資システムの第 2 例のサーバに記憶されるデータベース構成を示す図である。

【図 3 4】

移動体通信投資システムの第 2 例のサーバの制御手段により演算される配当演算方法を示す図である。

【図 3 5】

移動体通信投資システムの第 3 例のフローチャートである。

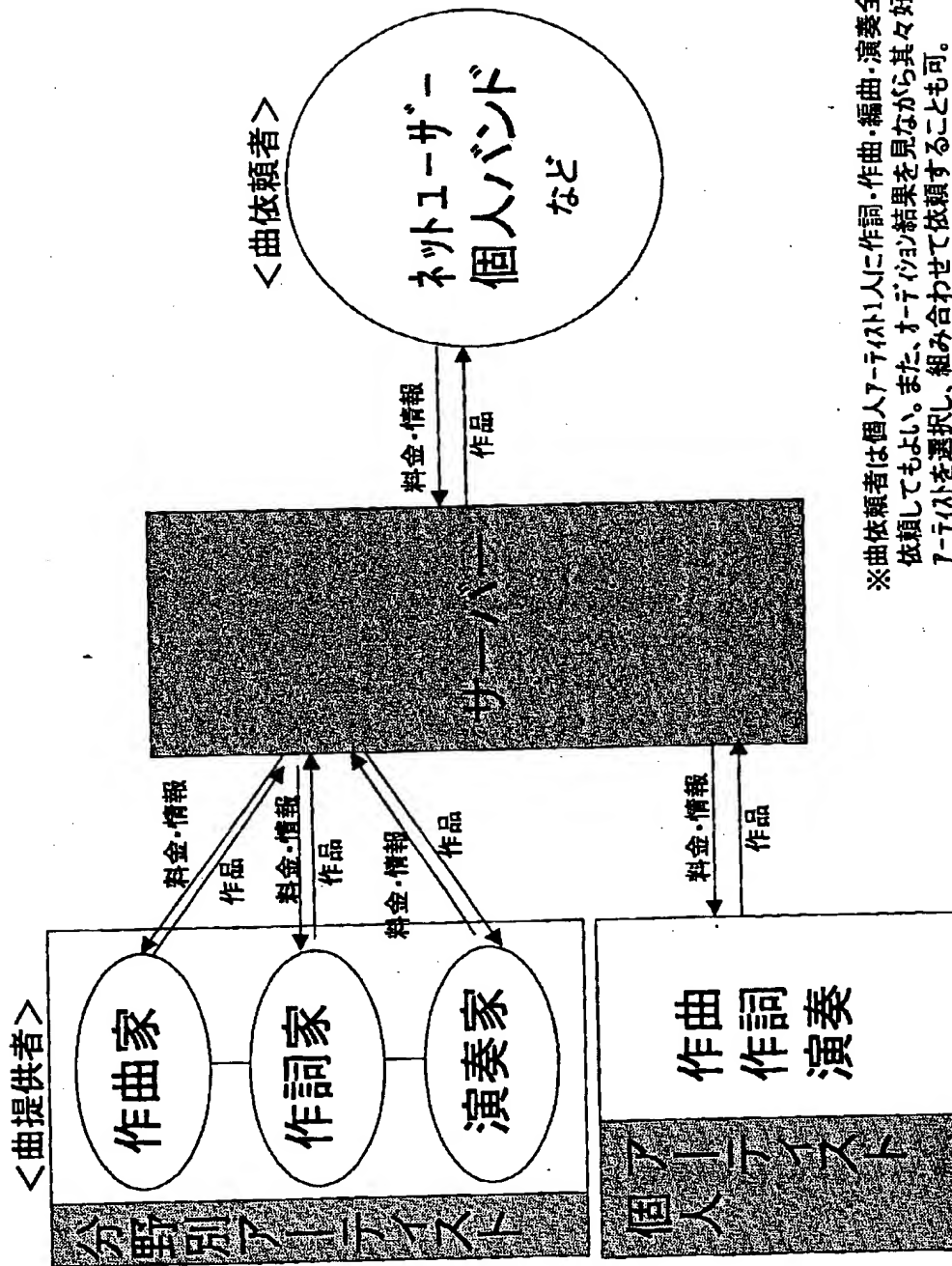
【図 3 6】

移動体通信投資システムの第 3 例のサーバに記憶されるデータベース構成を示す図である。

【図 3 7】

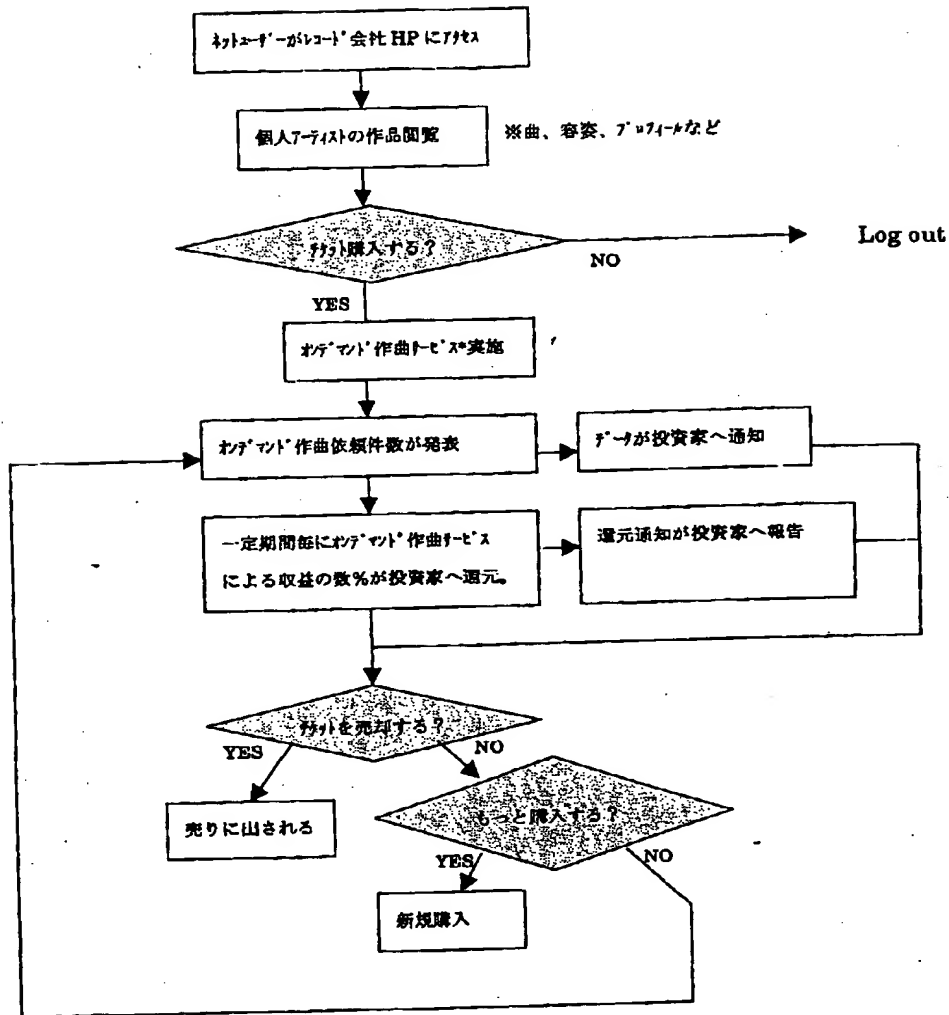
移動体通信投資システムの第 3 例のサーバの制御手段により演算される配当演算方法を示す図である。

【図2】

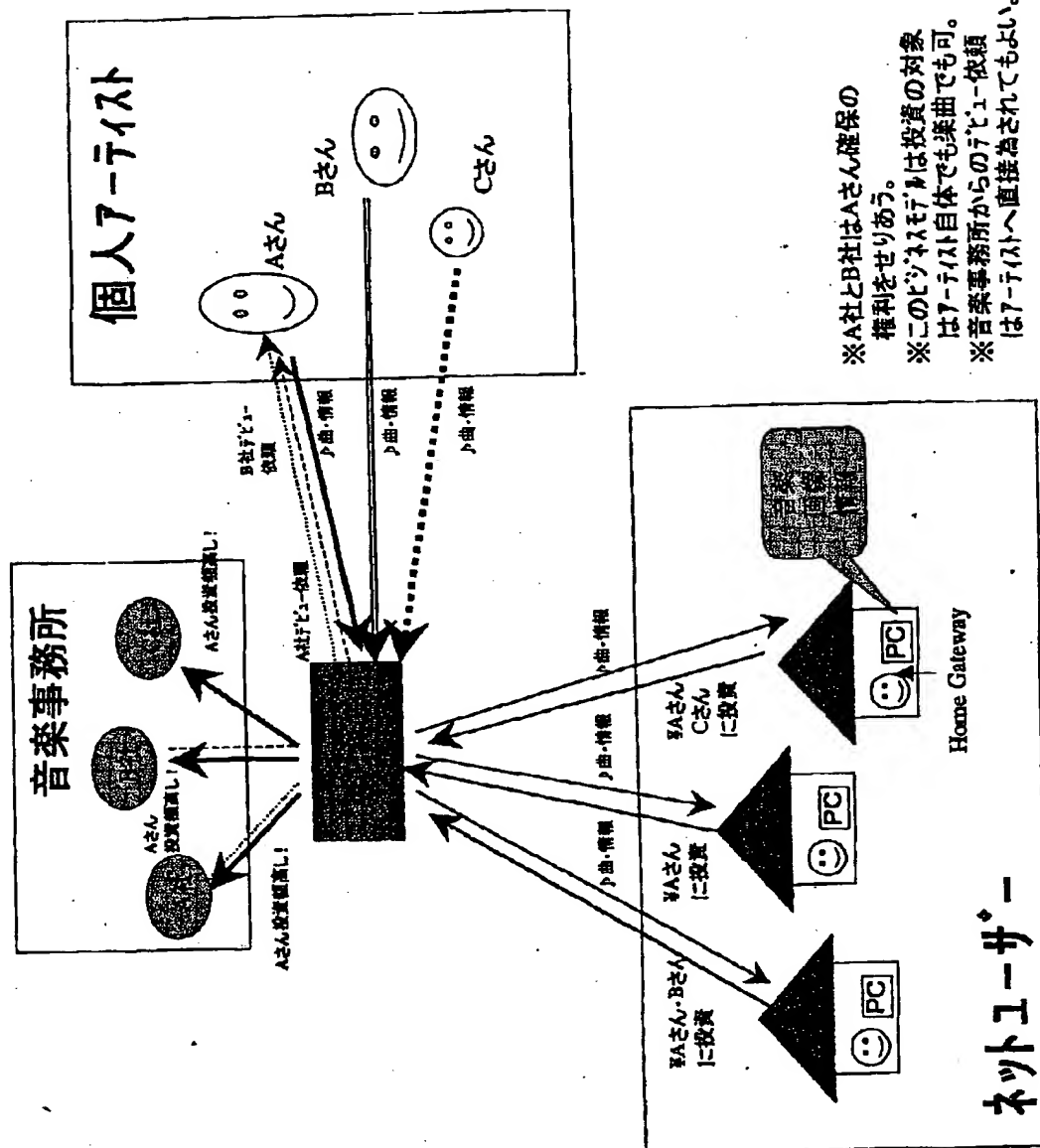


※曲依頼者は個人アーティストに作詞・作曲・編曲・演奏全てを依頼してもよい。また、オーディション結果を見ながら其々好きなアーティストを選択し、組み合わせで依頼することも可。

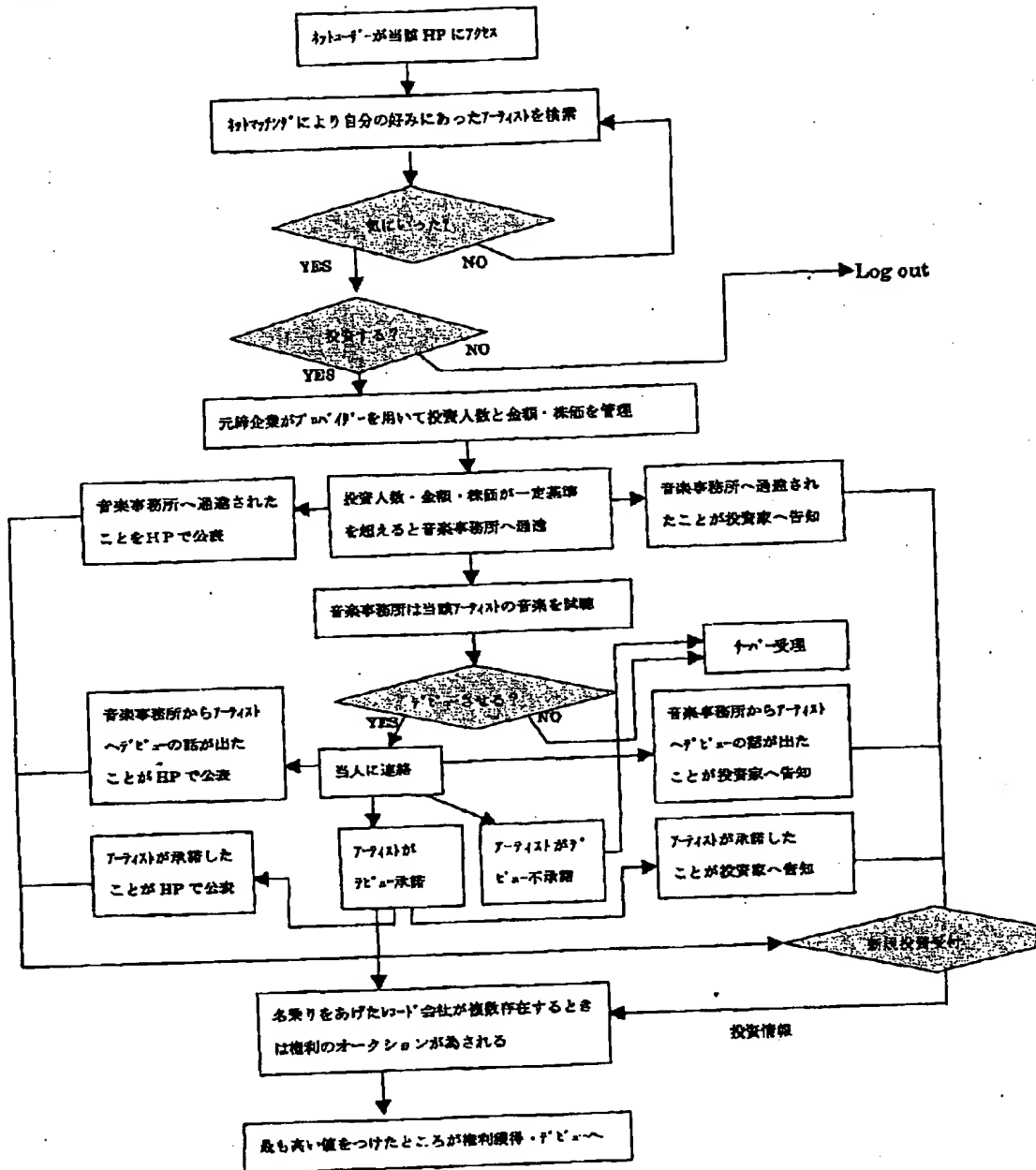
【図3】



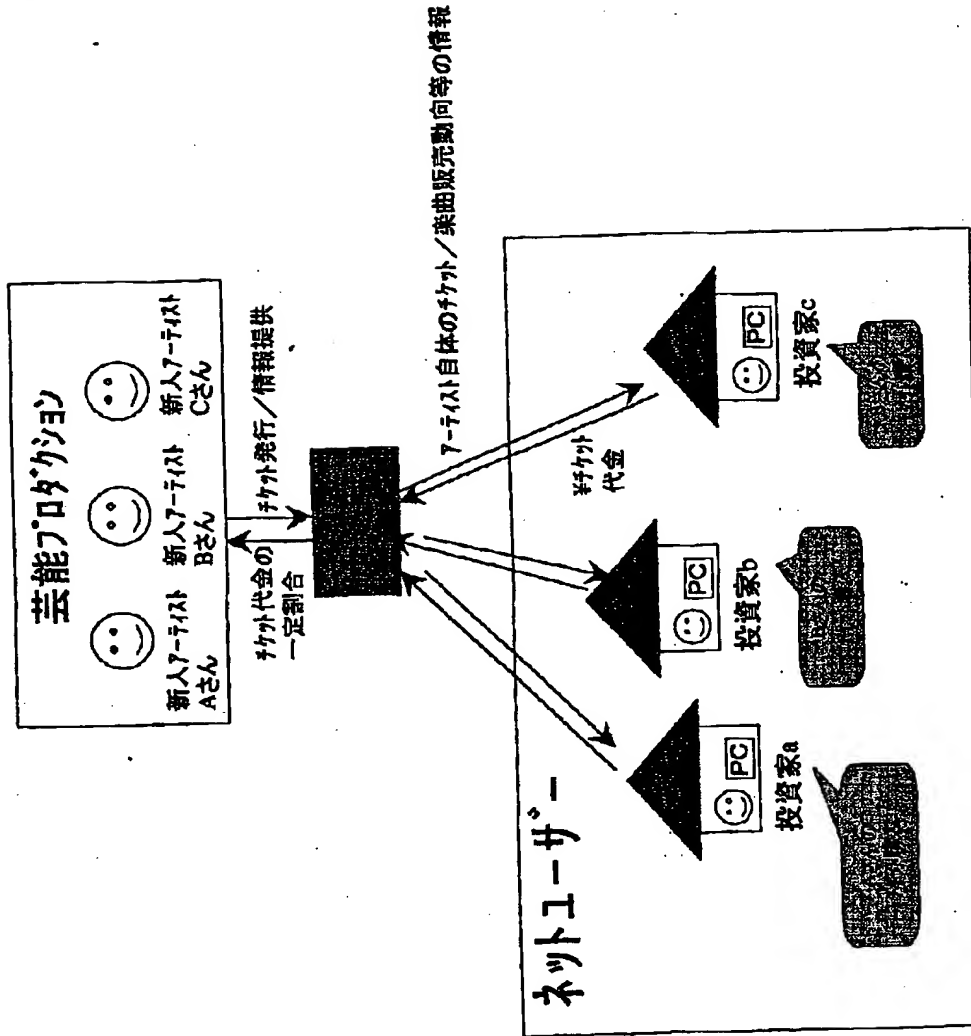
【図4】



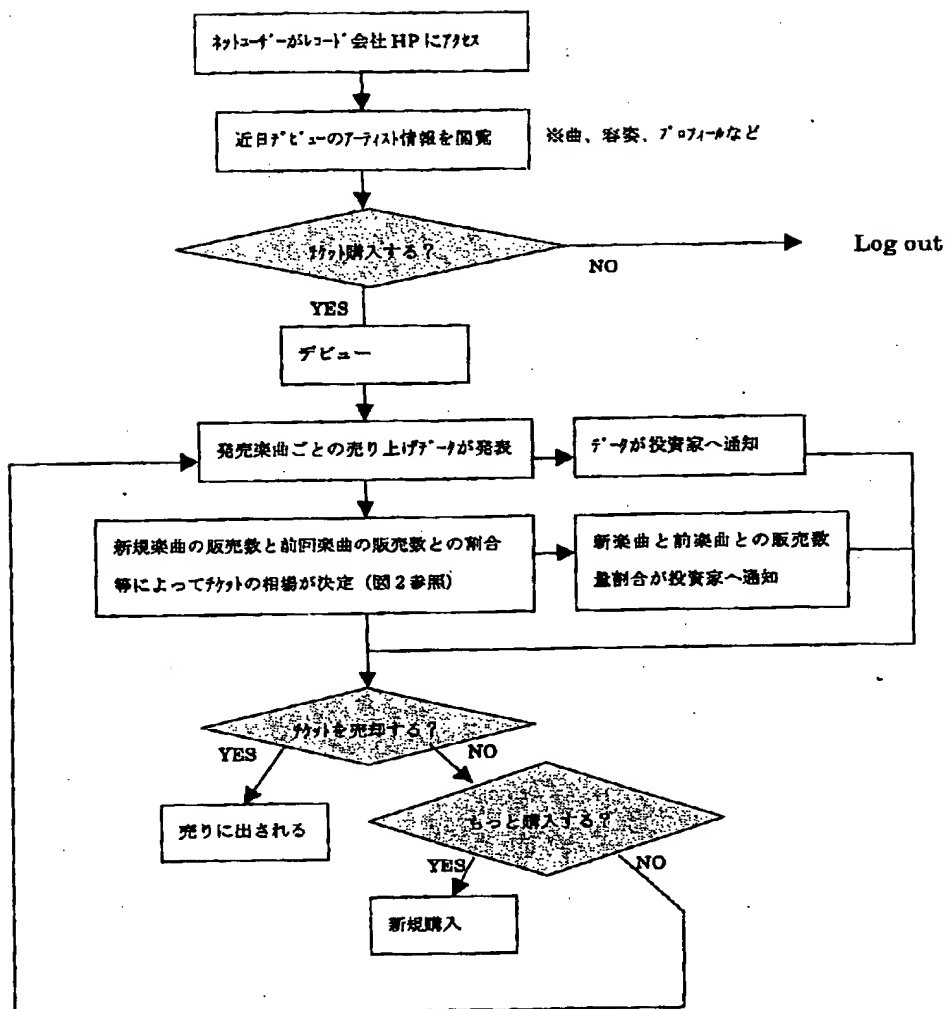
【図 5】



【図 6】



【図 7】

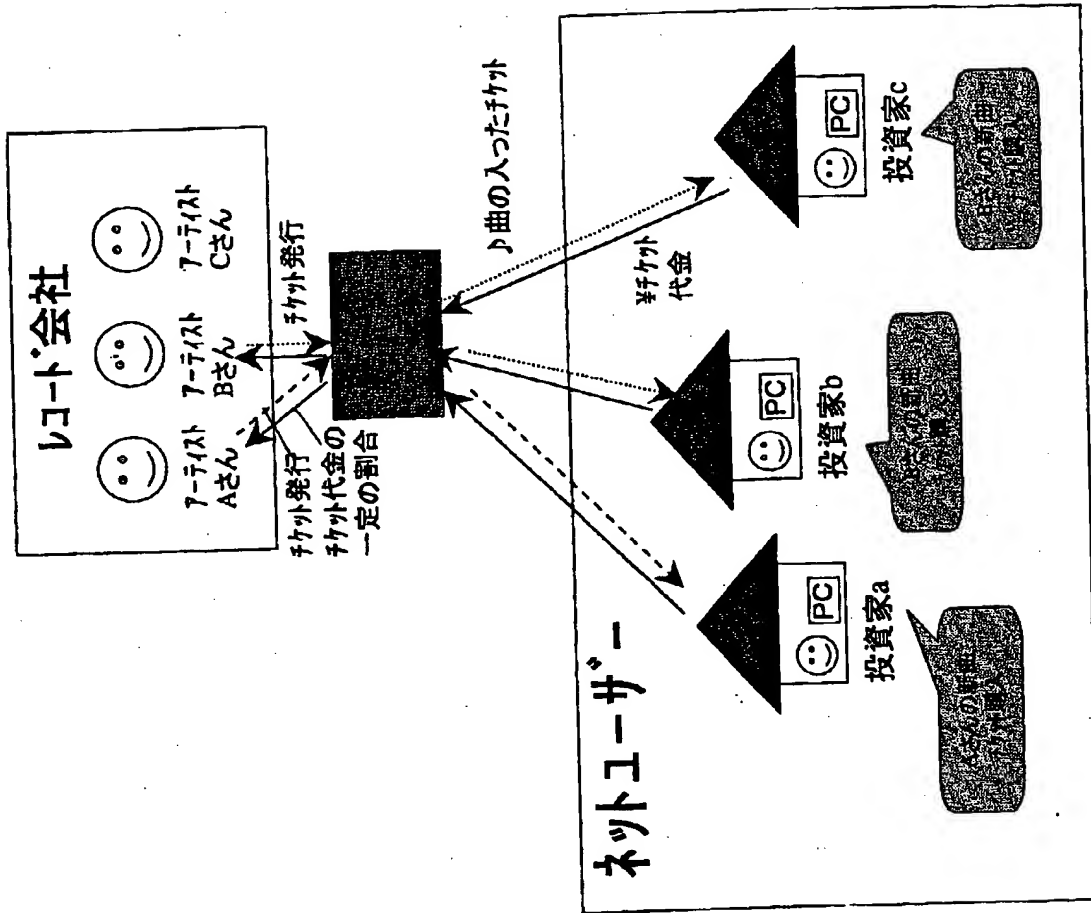


【図 8】

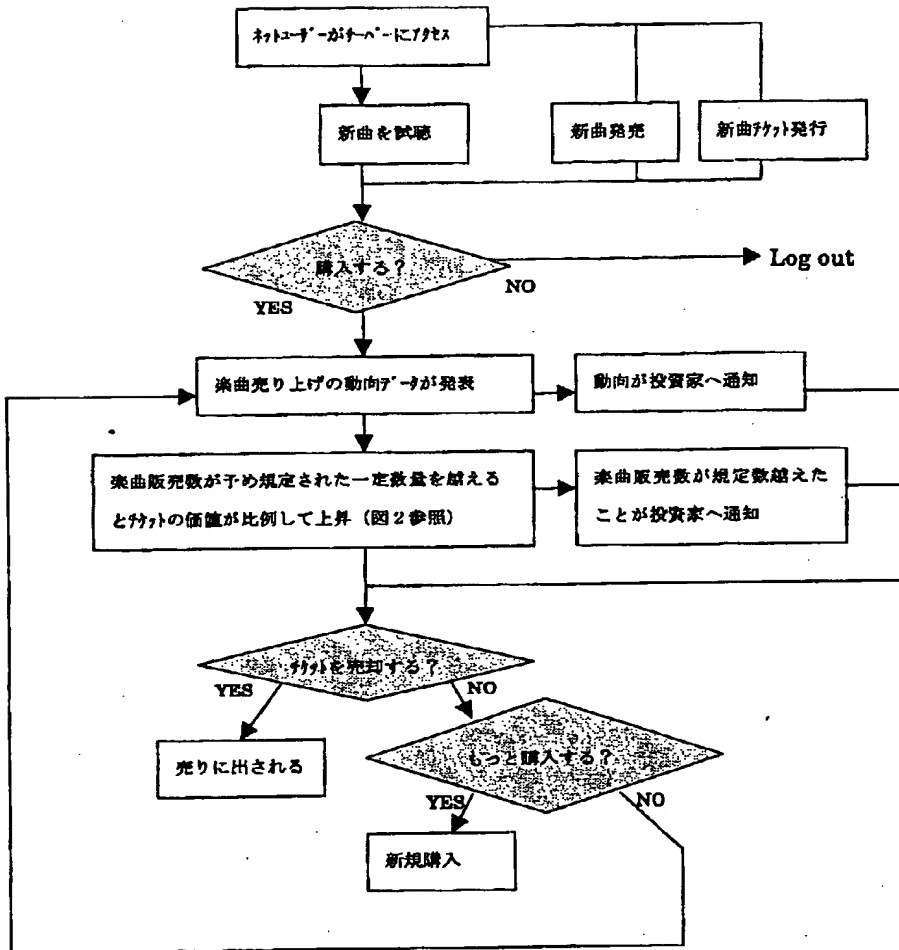
発売楽曲 (ソングタイトル)	1 枚め	2 枚め	3 枚め …
売上動向 (枚)	m	$m \pm x$	$(m \pm x) \pm x$
発売楽曲ごとの 楽曲価値 (円)	n (初期投資額)	$n \times \frac{m \pm x}{m}$	$n \times \frac{(m \pm x) \pm x}{m \pm x}$
関連商品売上 (円)	Y	$Y \pm x$	$(Y \pm x) \pm x$
売上動向率 (%)	—	$\frac{Y \pm x}{Y} \times 100$	$\frac{(Y \pm x) \pm x}{Y \pm x} \times 100$
チケット価格 (円)	各発売楽曲ごとの楽曲価値(円)×関連商品売上げ動向率(%)		

※関連商品には、シングルや CM 出資料なども含まれる。

【図9】



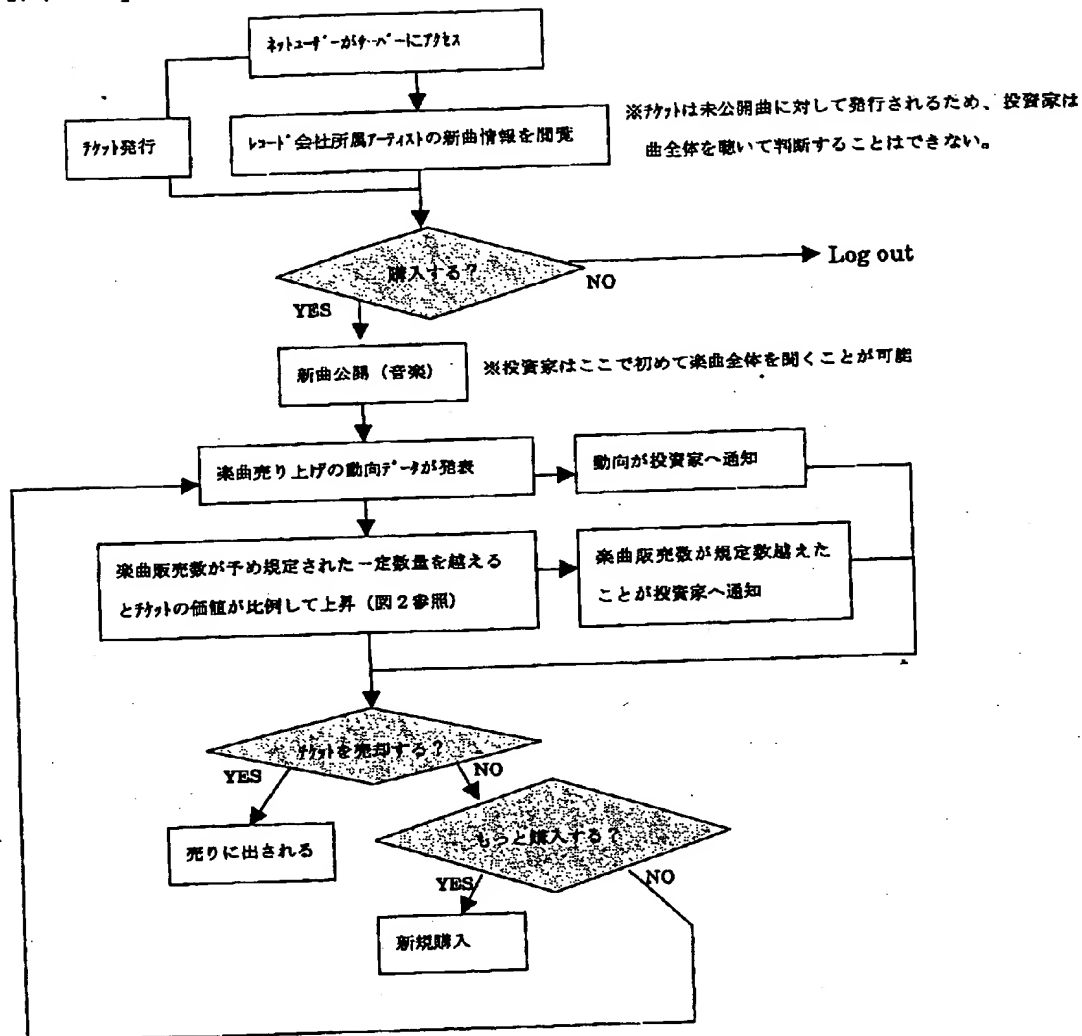
【図 10】



【図 11】

楽曲売り上げ枚数 (CD など)	1000 枚	2500 枚	5000 枚	7500 枚 …
元値 n (円)	$n \times 1.03$	$n \times 1.05$	$n \times 1.1$	$n \times 1.5 \dots$

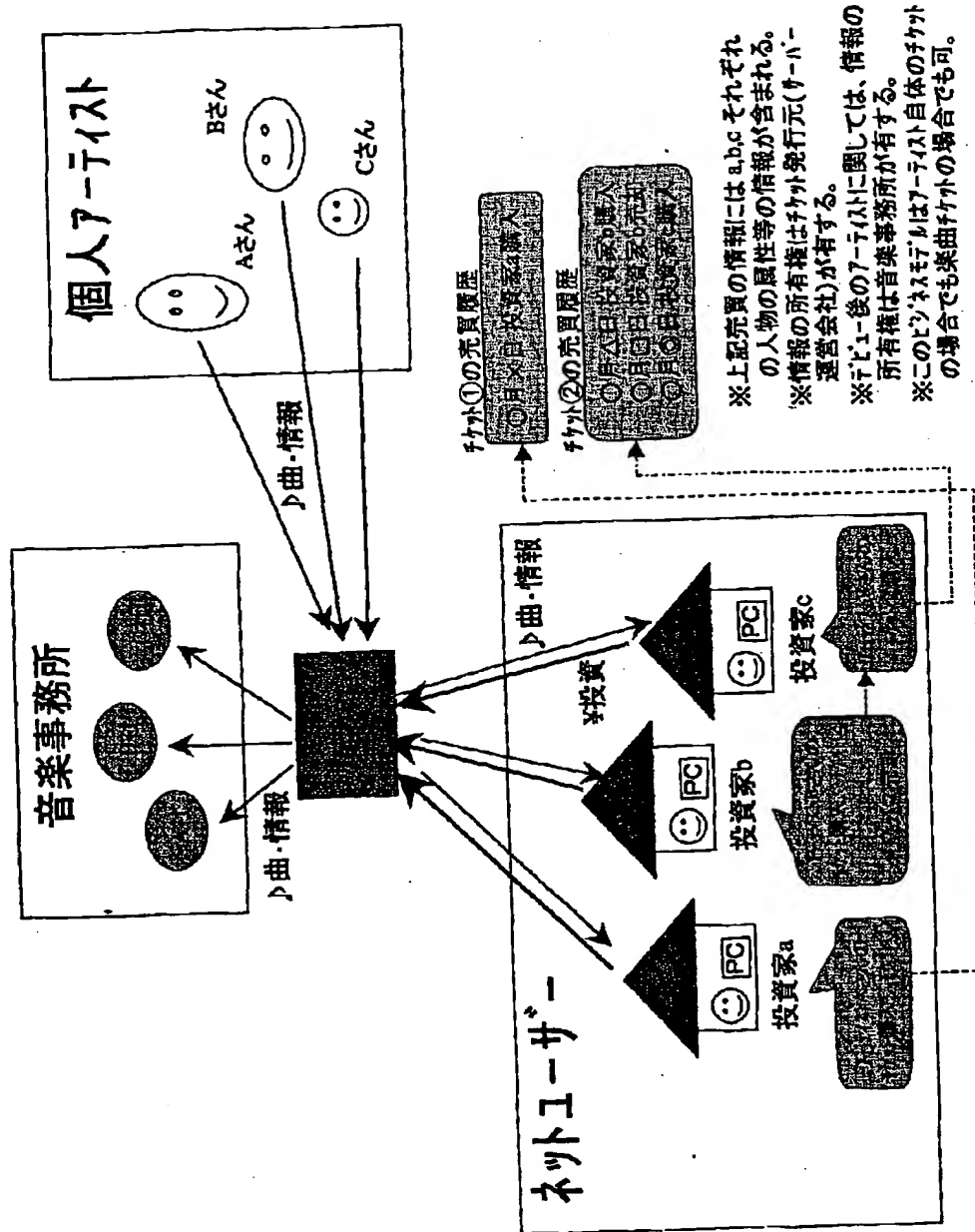
【図 12】



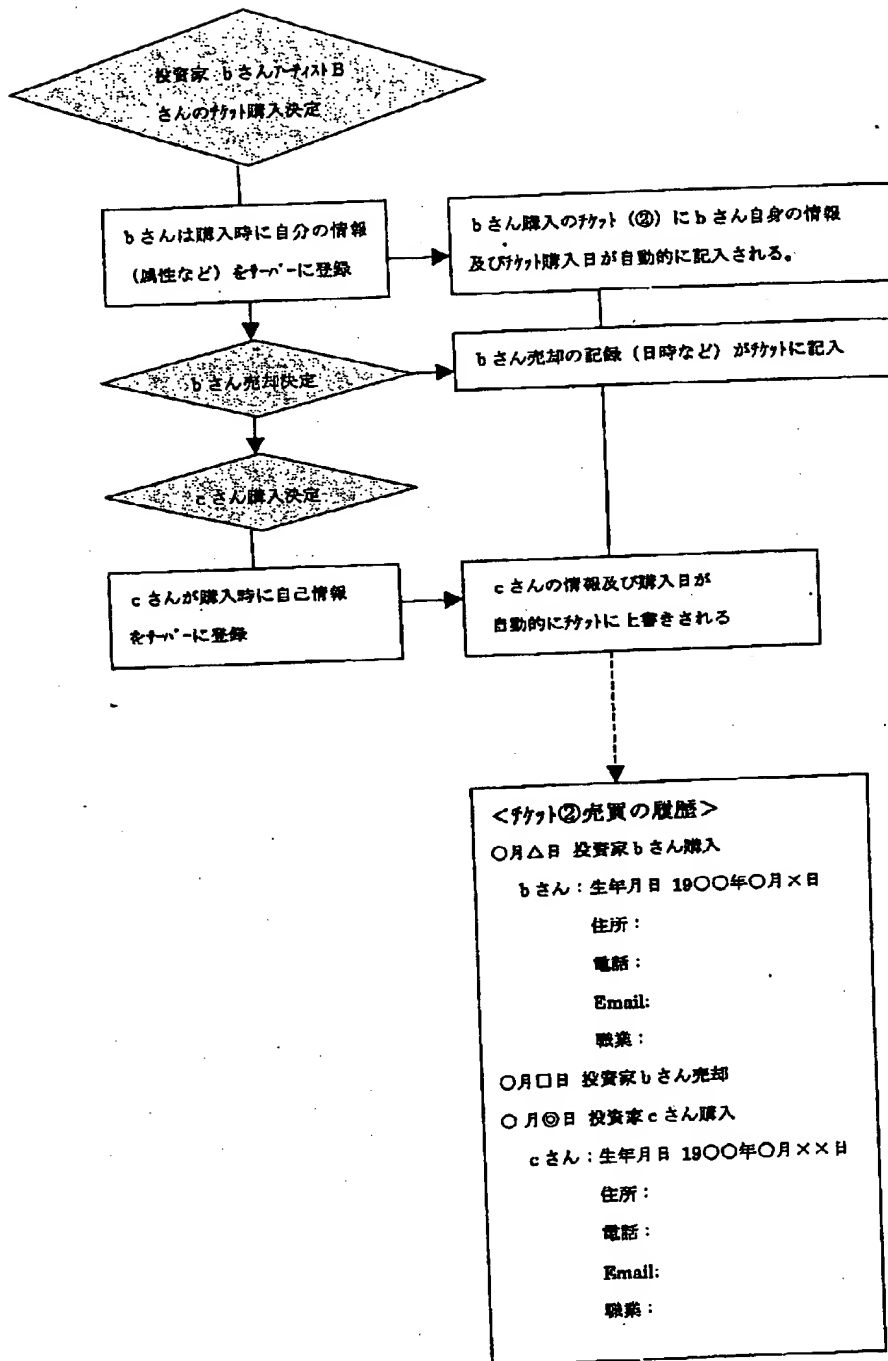
【図 13】

楽曲売り上げ枚数（CDなど）	2500 枚	5000 枚	10000 枚	15000 枚 ...
元値 n （円）	$n \times 1.03$	$n \times 1.05$	$n \times 1.1$	$n \times 1.5$...

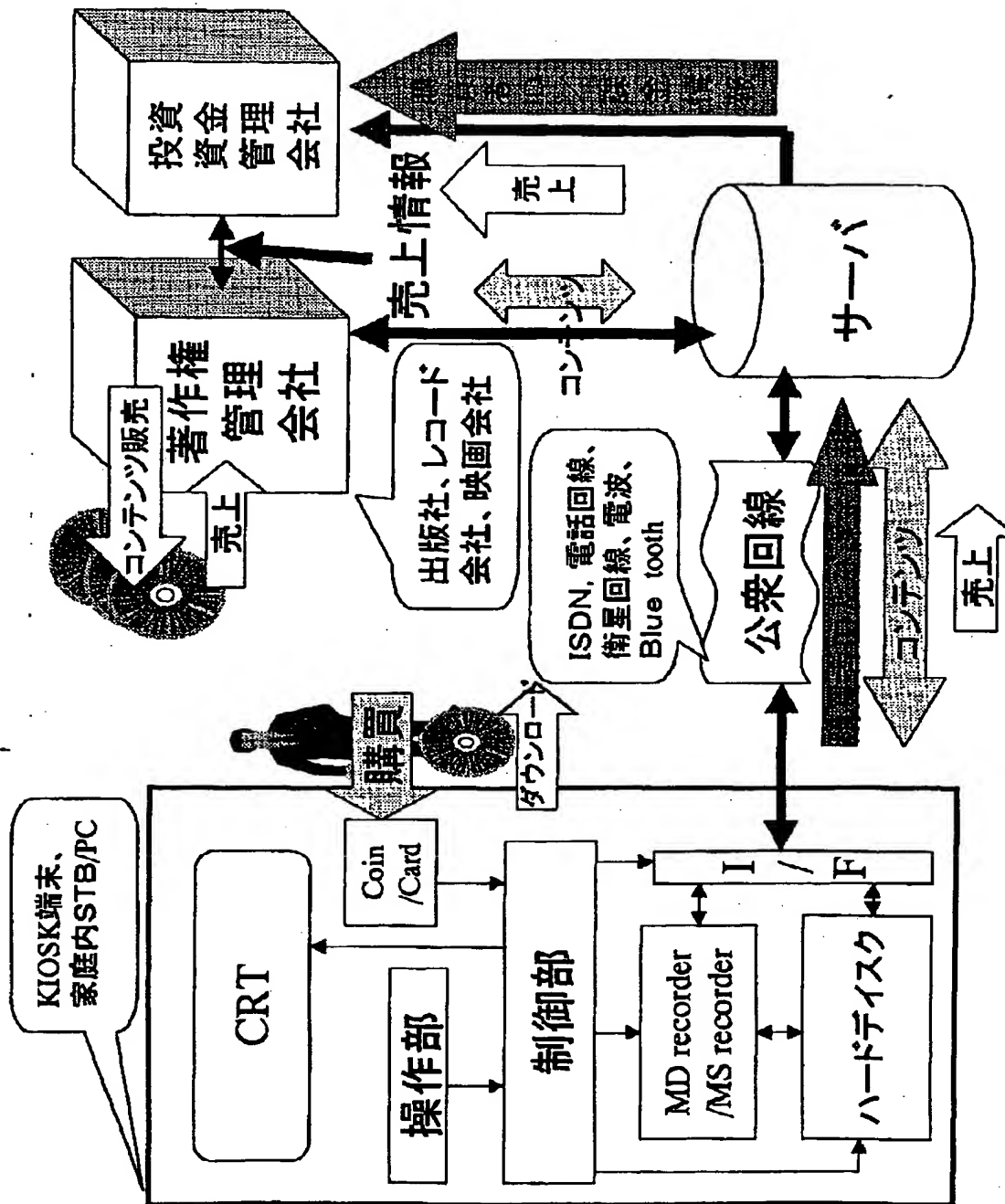
【図 14】



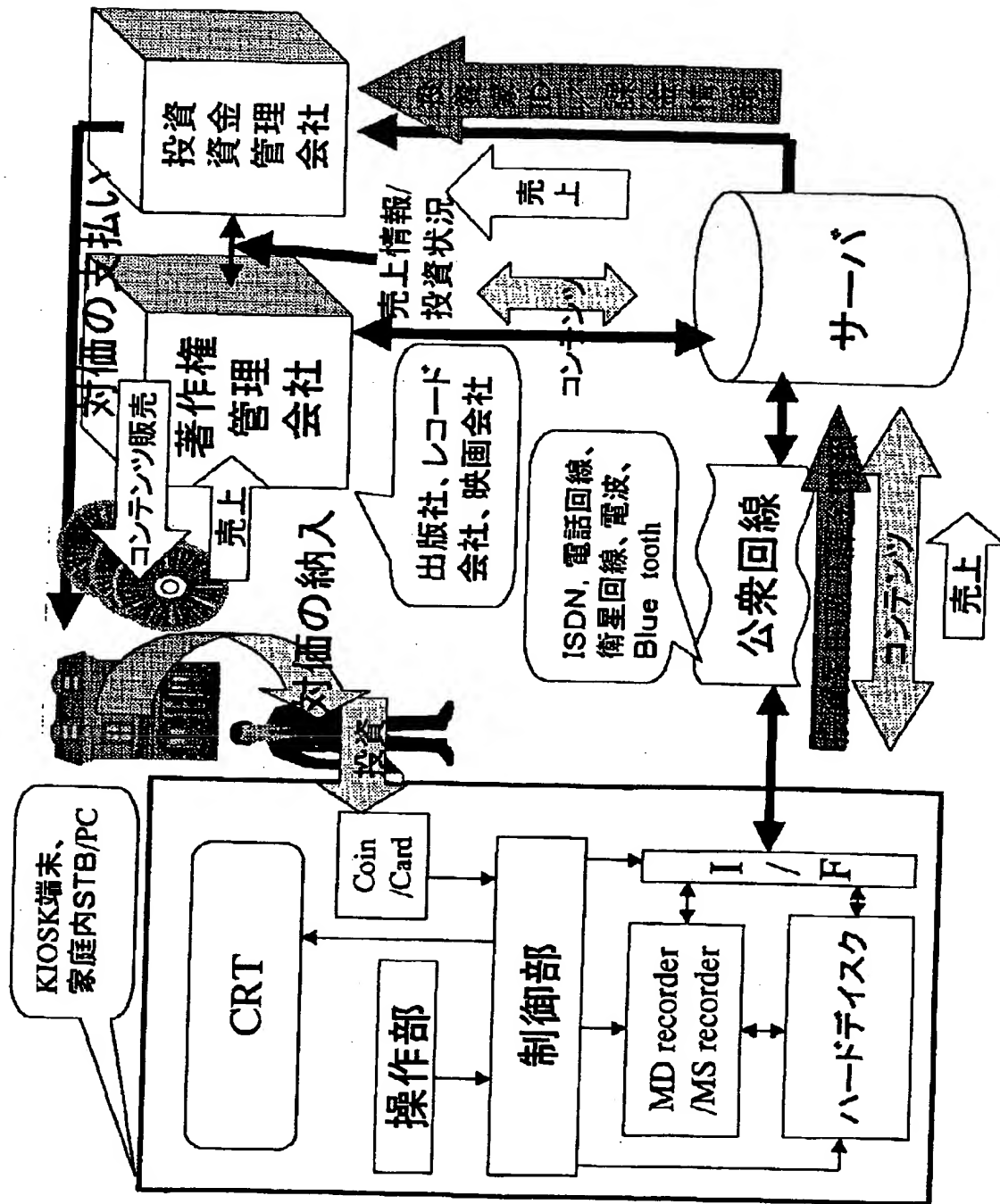
【図15】



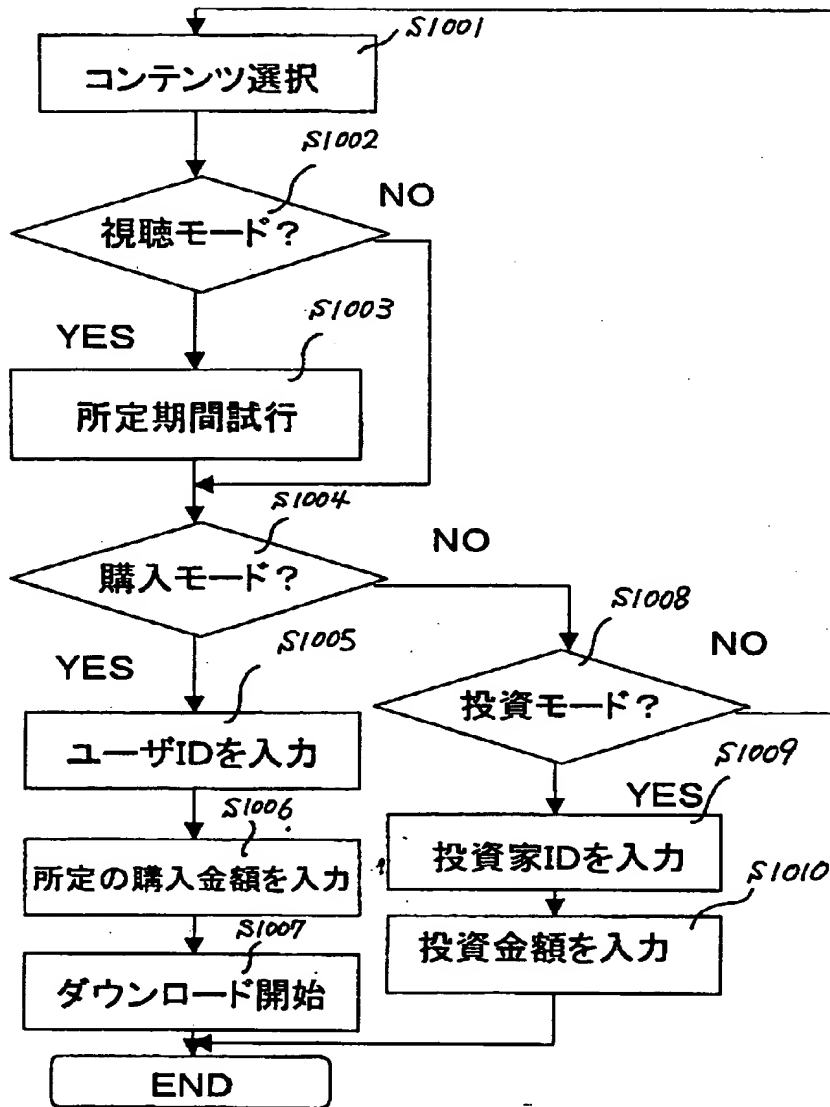
【図16】



【図17】




【図18】



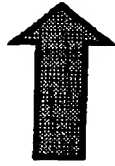
【図19】

購入



XXX円
お支払いください

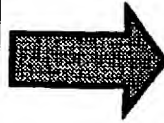
1. Credit
2. 現金払い





支払い後



MD又はメモ리카ードを挿入してください。



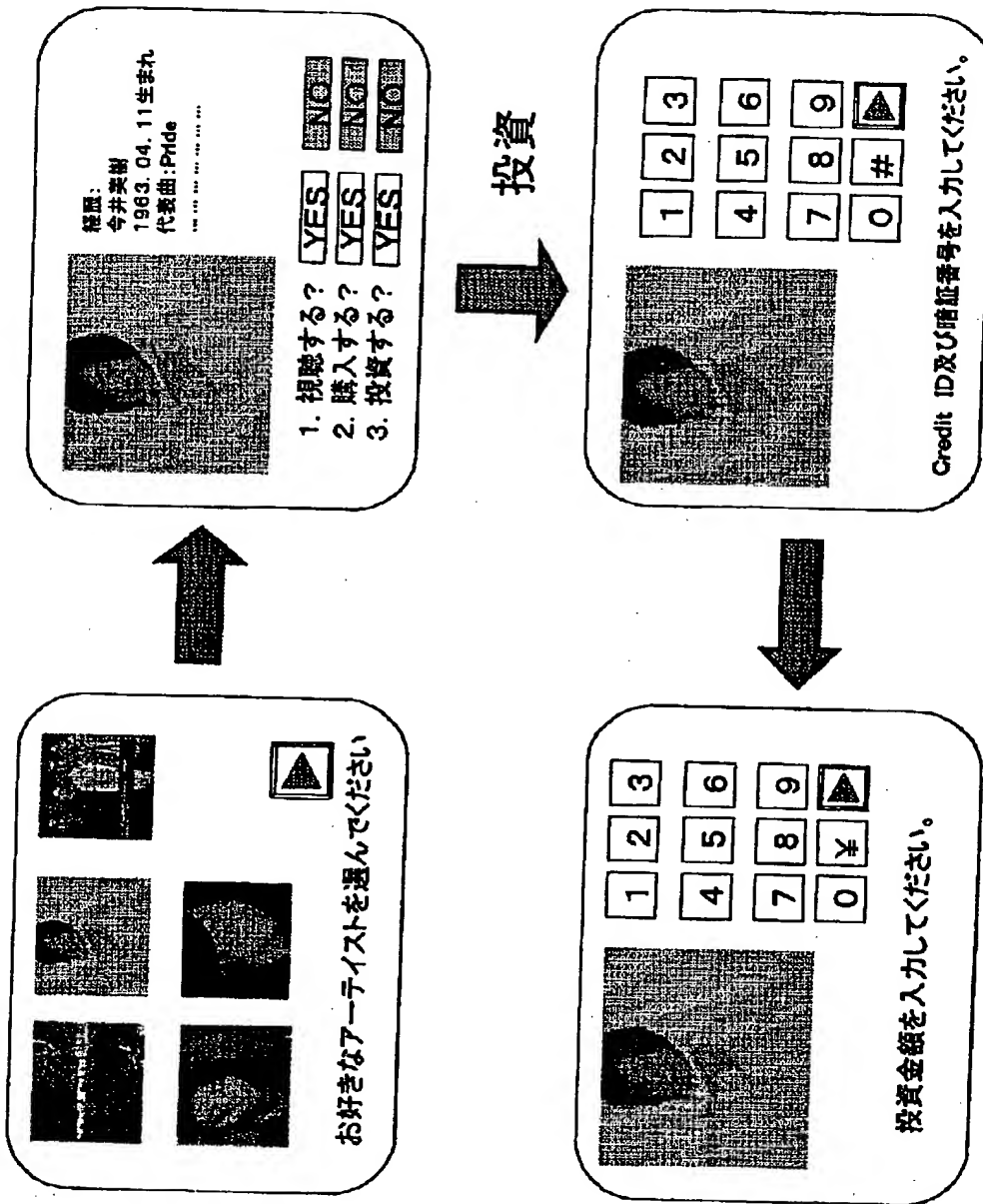



ダウンロード中

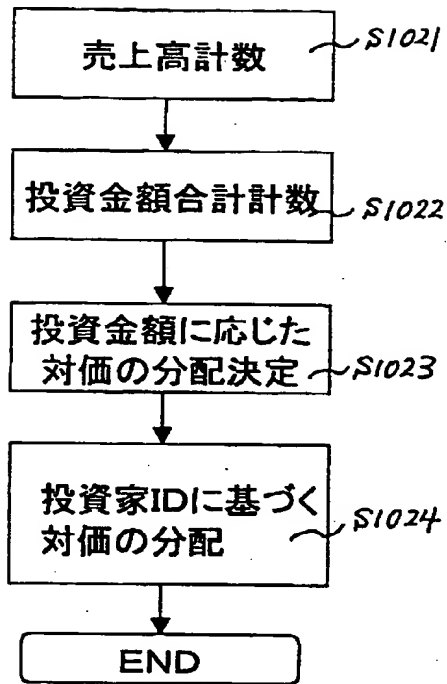
MD又はメモ리카ードを抜かないでください

【図20】

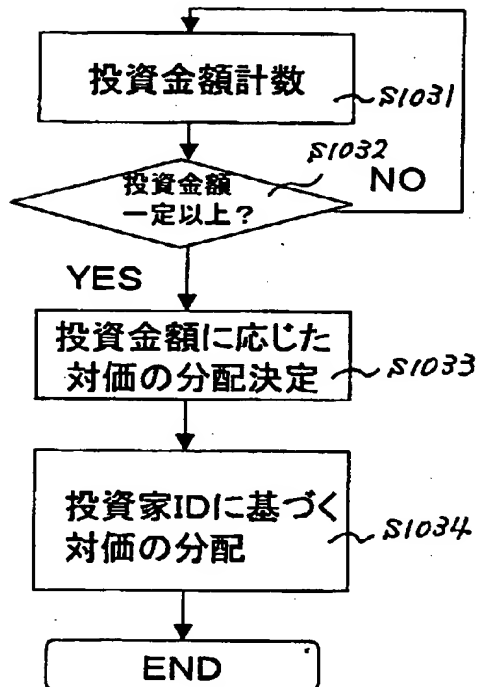
投資



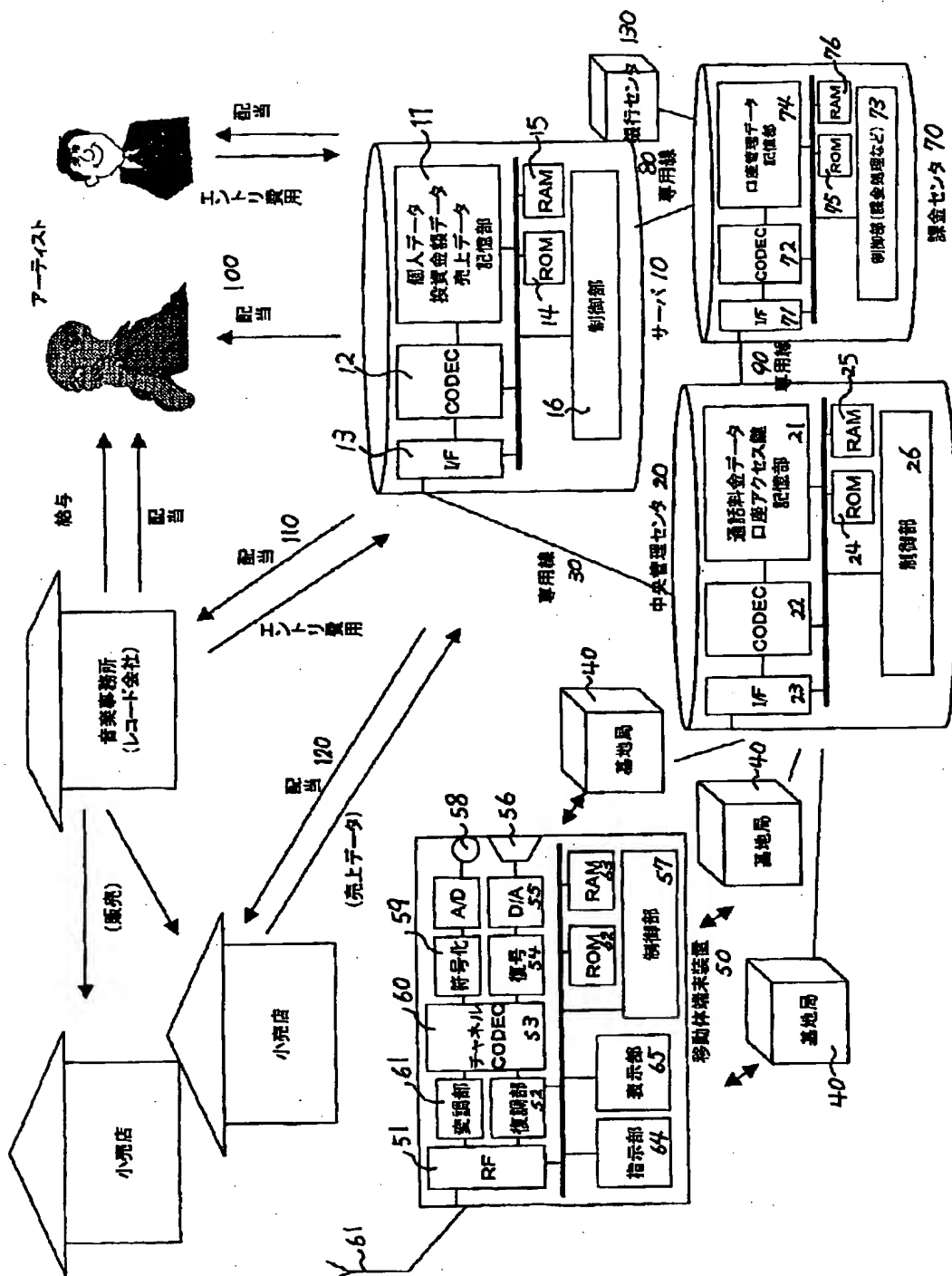
【図 2 1】



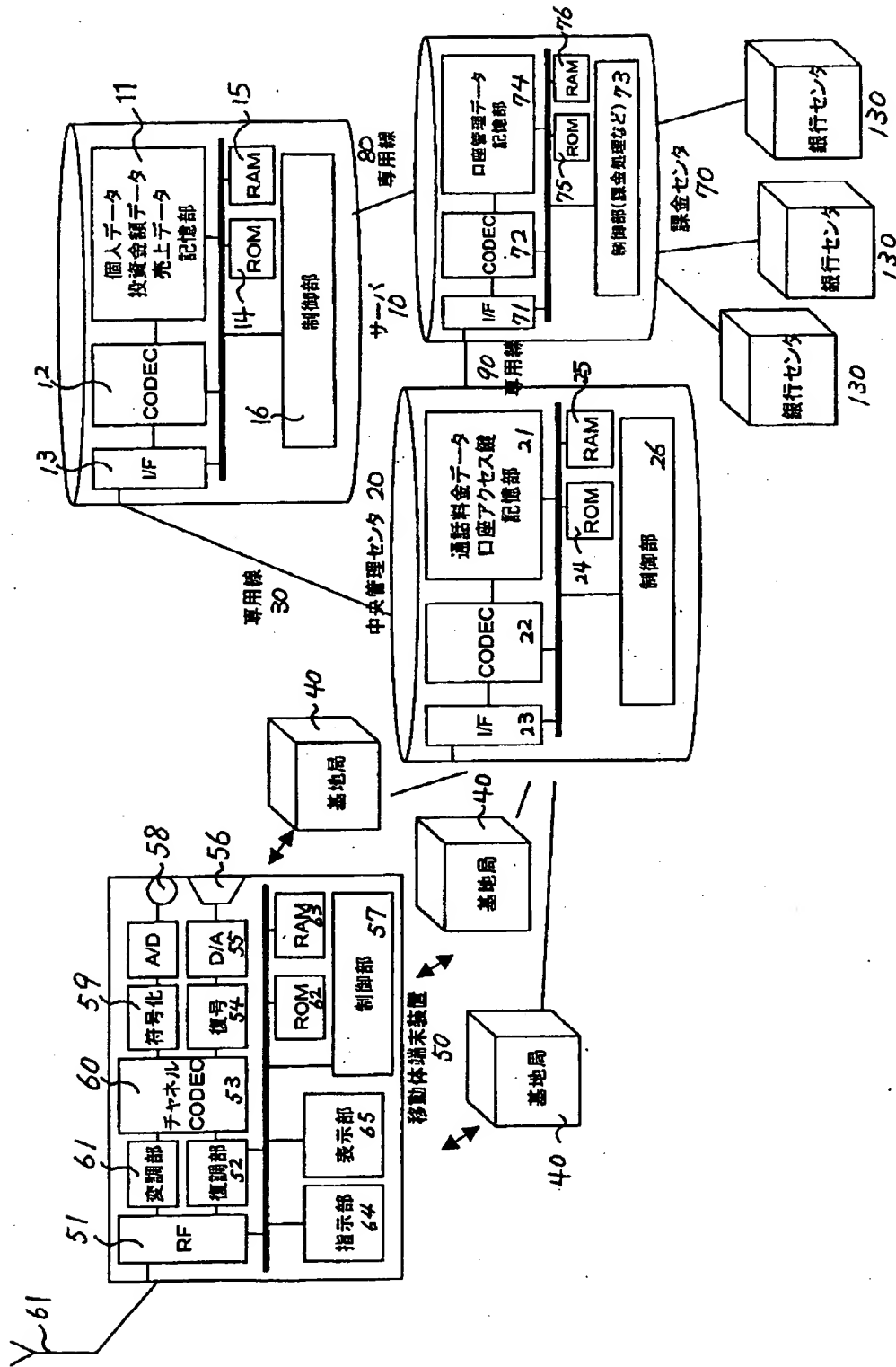
【図 2 2】



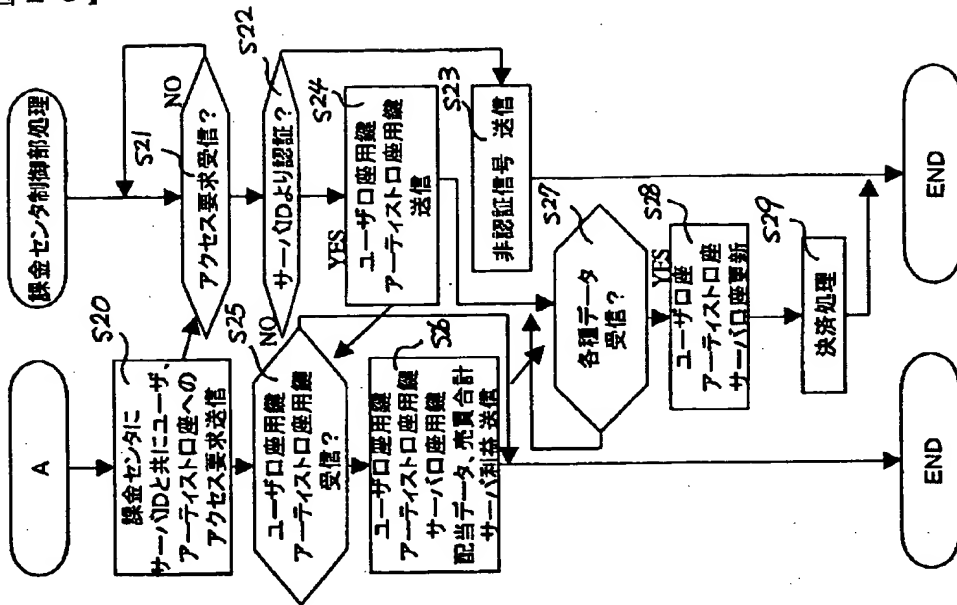
【図 23】



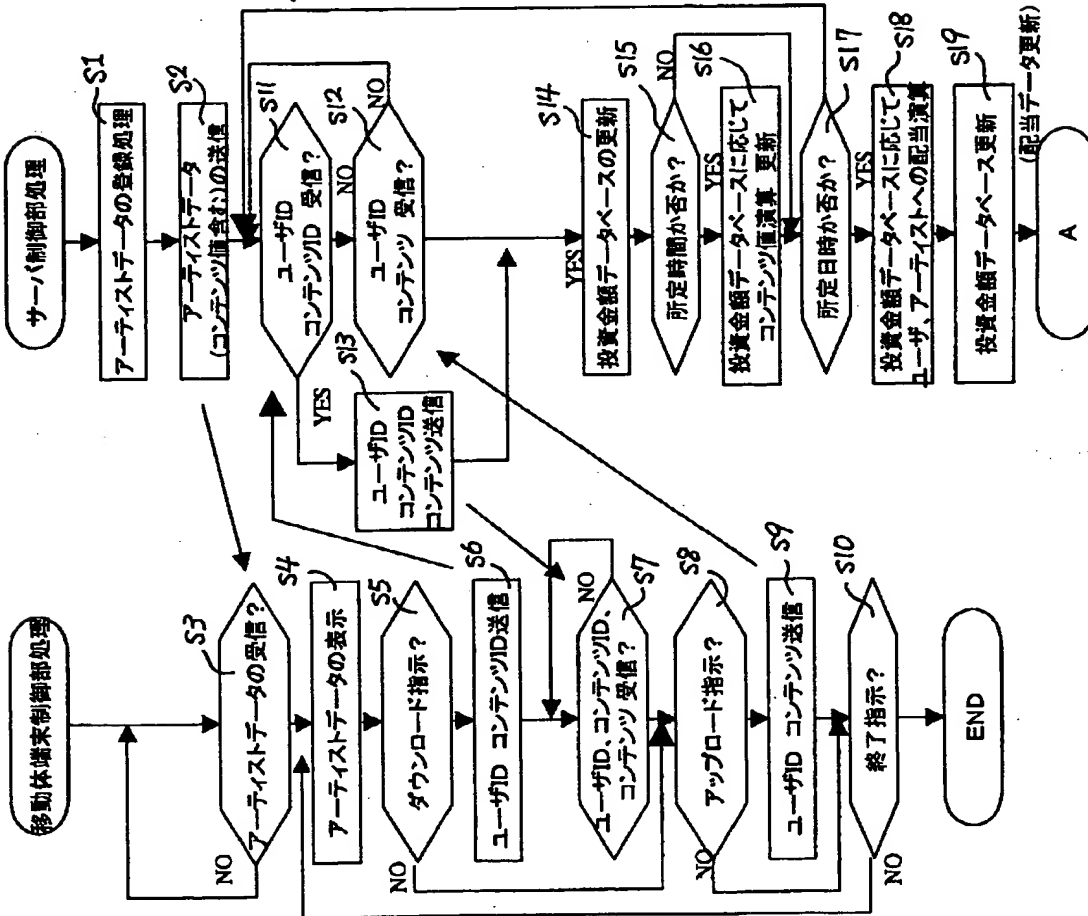
【図 24】



【図 25】



※売買データ、配当データなどは一括で
課金処理される例



【図 26】

サーバID	コンテンツID	コンテンツID	ユーザID	ダウンロード数	アップロード数	売買合計	サーバ利益
アーティストID	AAA	100	A123B	1	0	100	260000
MIKE			A325B	2	1	100	
			A457C	5	1	400	
AAA2		120	B875D	2	2	0	
BBB		200	D451A	2	1	200	
CAT		1000	F719B	2	0	2000	

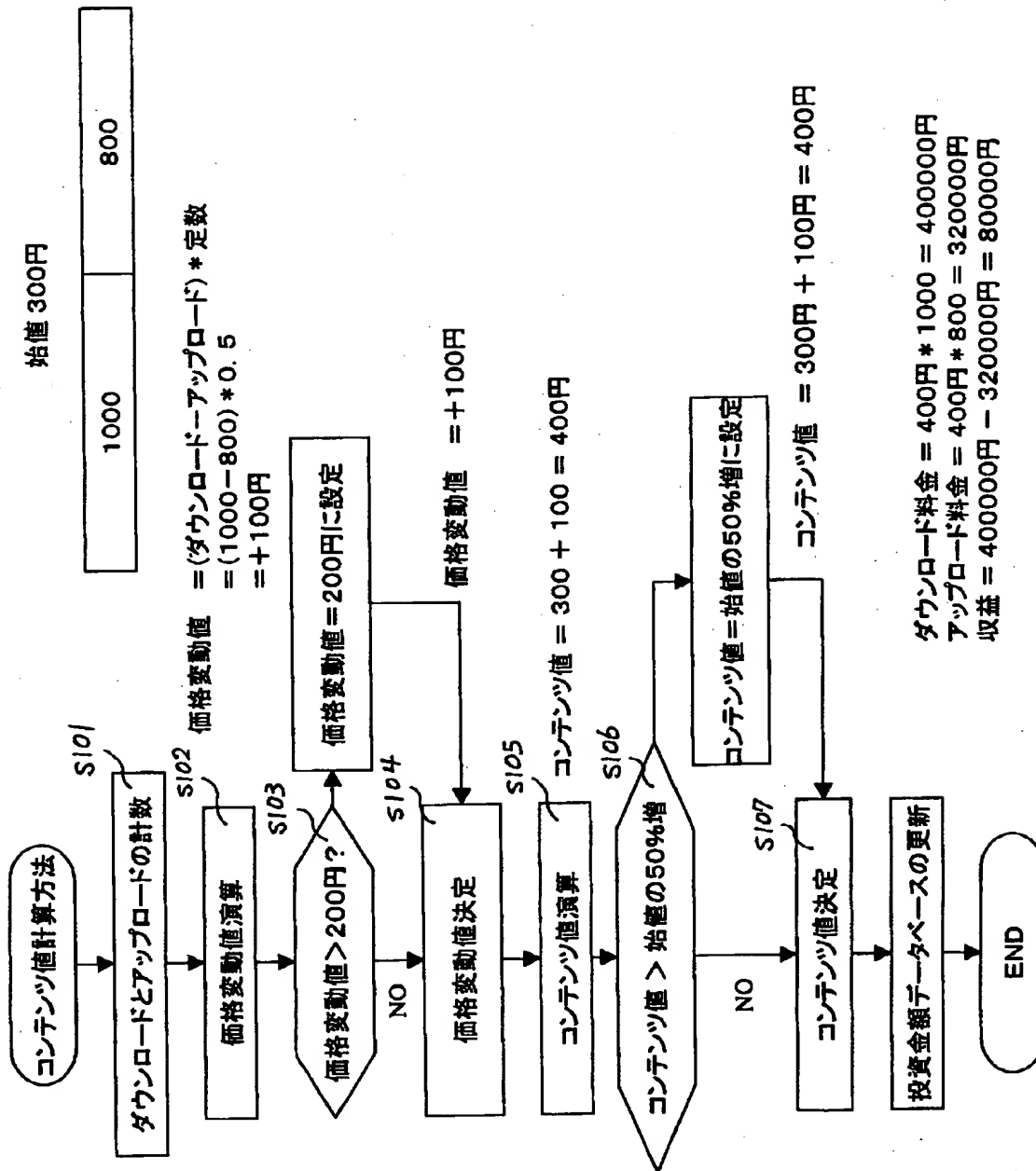
(A)

ユーザ配当	アーティスト配当	ユーザ口座用鍵	アーティスト口座用鍵	サーバ口座用鍵
1	100000	k1	K1	Se
1		k2		
4		k3		
0		k4		
10		k5	K2	
100		k6	K3	

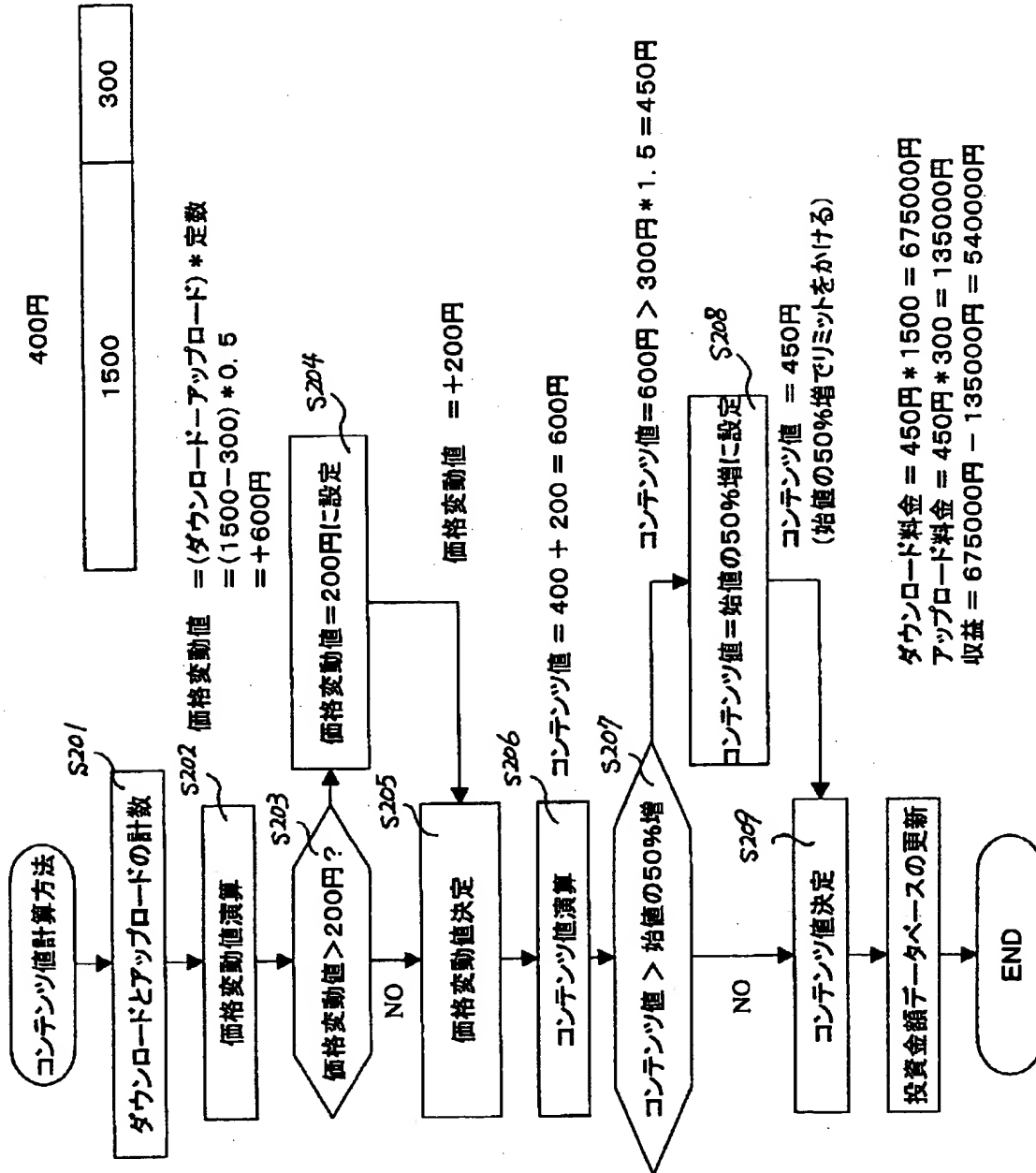
ID	銀行ID	口座番号	日付	出入履歴	残金	口座用鍵
A123B	○△銀行	123456789	2000.02.10	10000	110000	k1
			2000.02.13	10000	120000	
			2000.02.15	-20000	100000	
			2000.02.15	-20000	80000	
			2000.02.18	-30000	50000	
			2000.02.20	-10000	40000	
CAR	×■銀行	321456785	2000.02.05	-20000	100000	K2
			2000.02.13	-10000	90000	
SERVER1	△△銀行	548795431	2000.02.13	260000	260000	Se

(B)

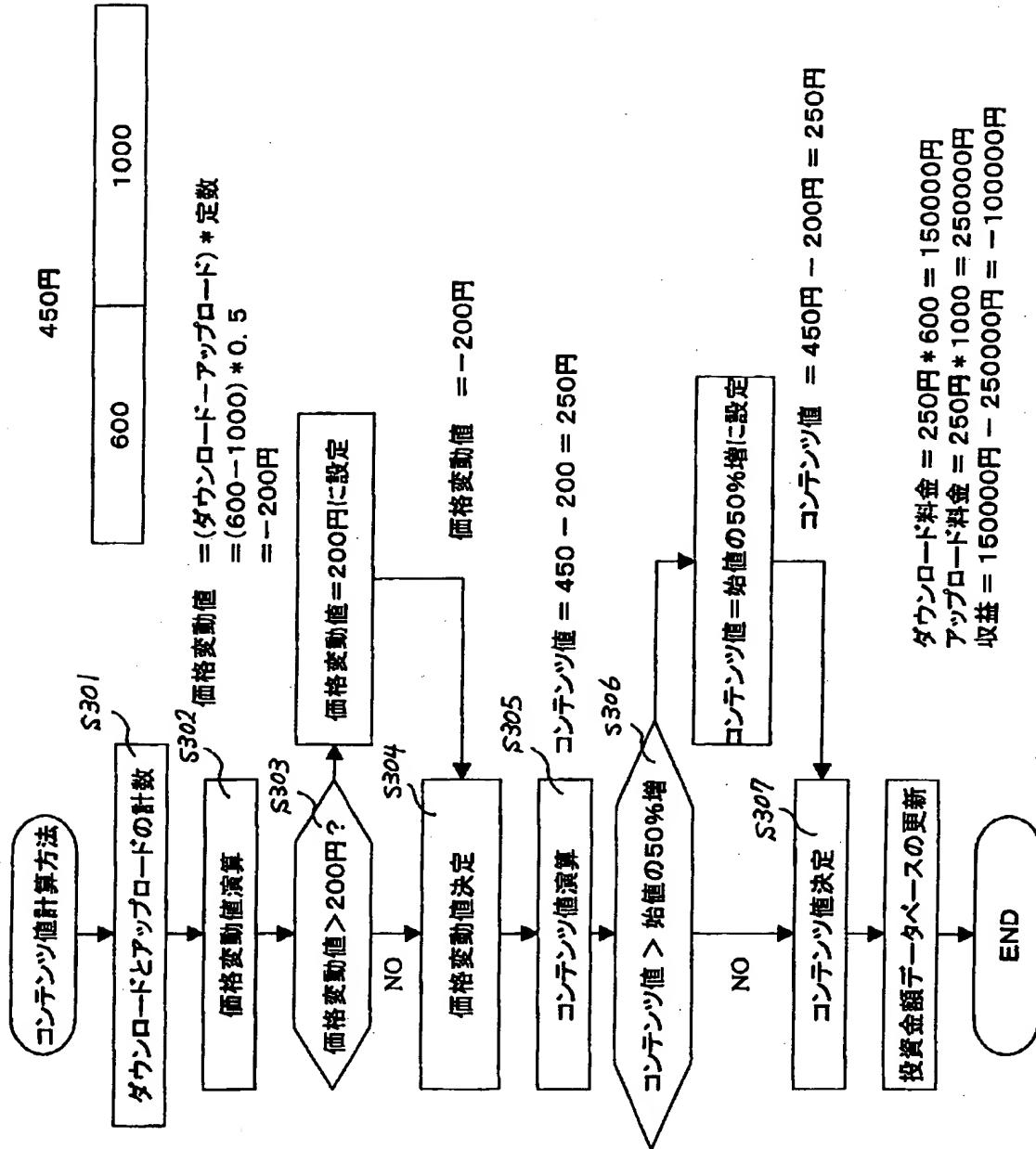
【図 27】



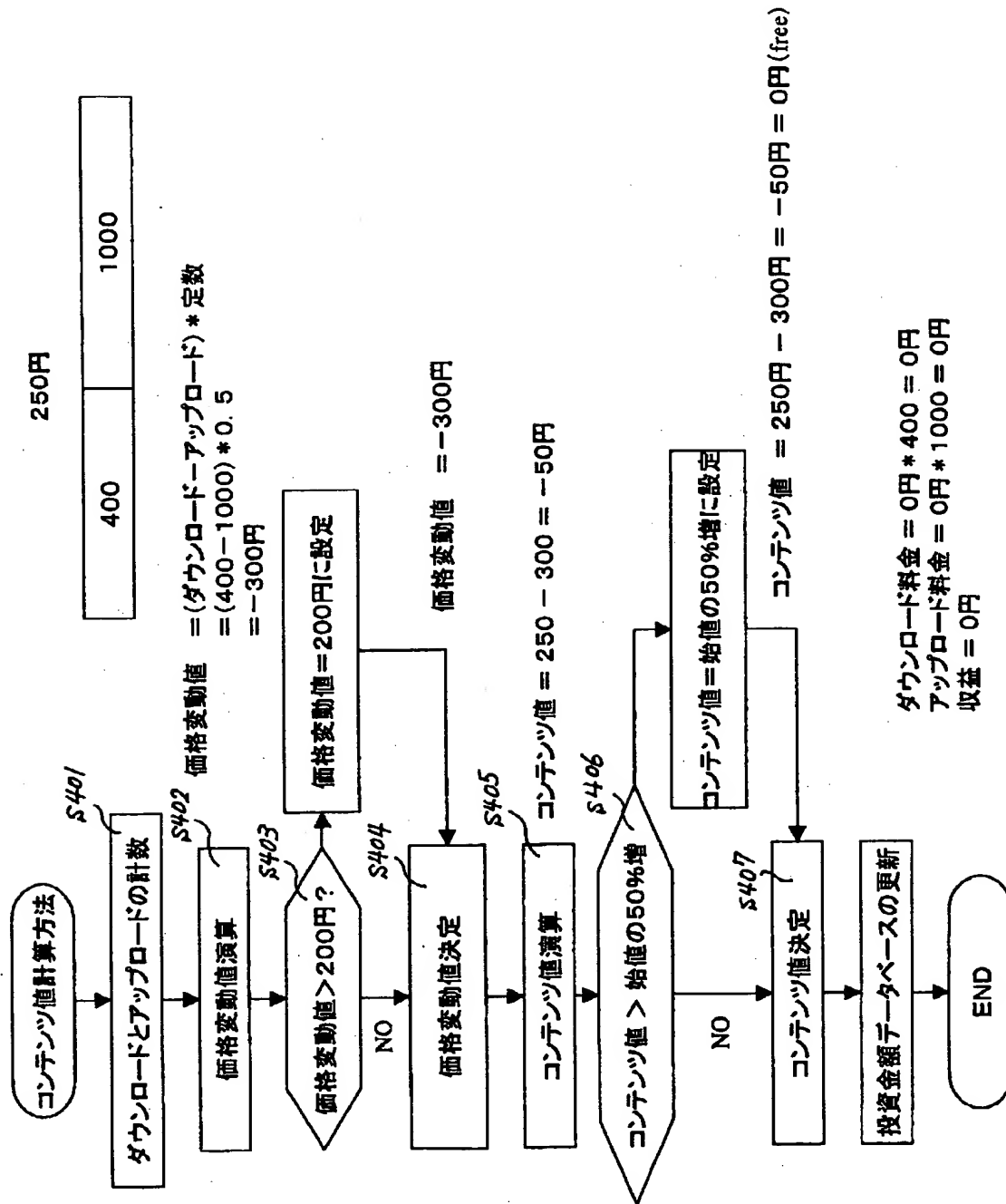
【図 28】



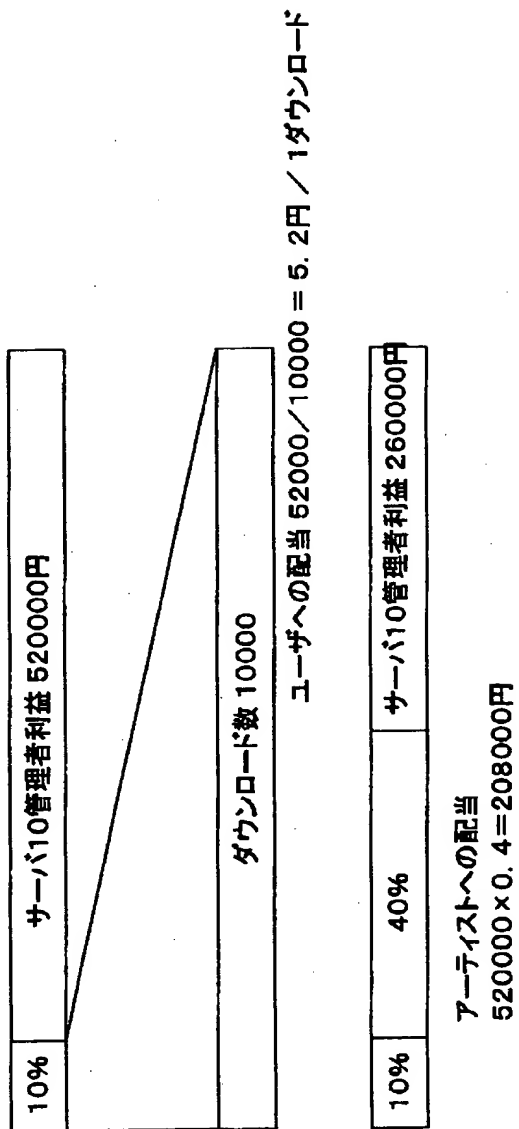
【図 29】



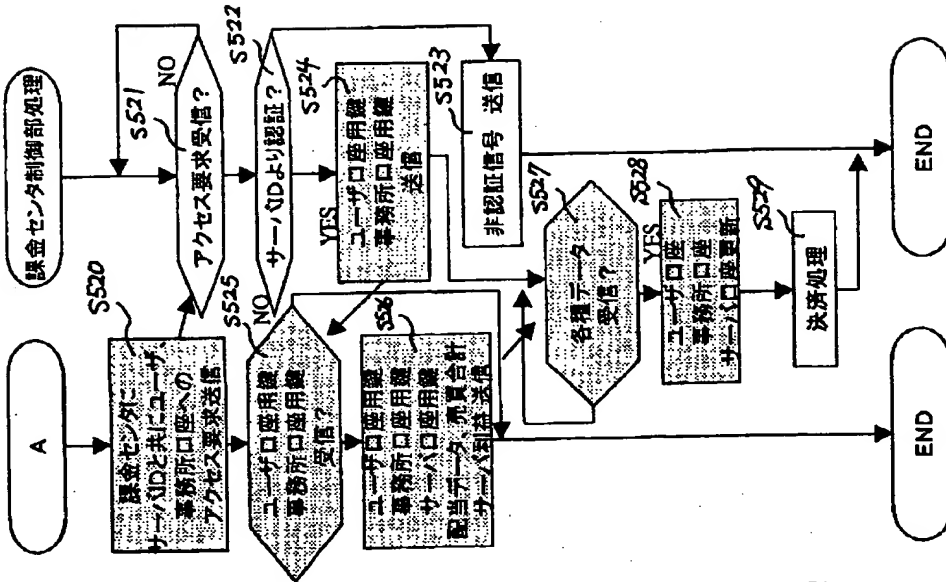
【図 30】



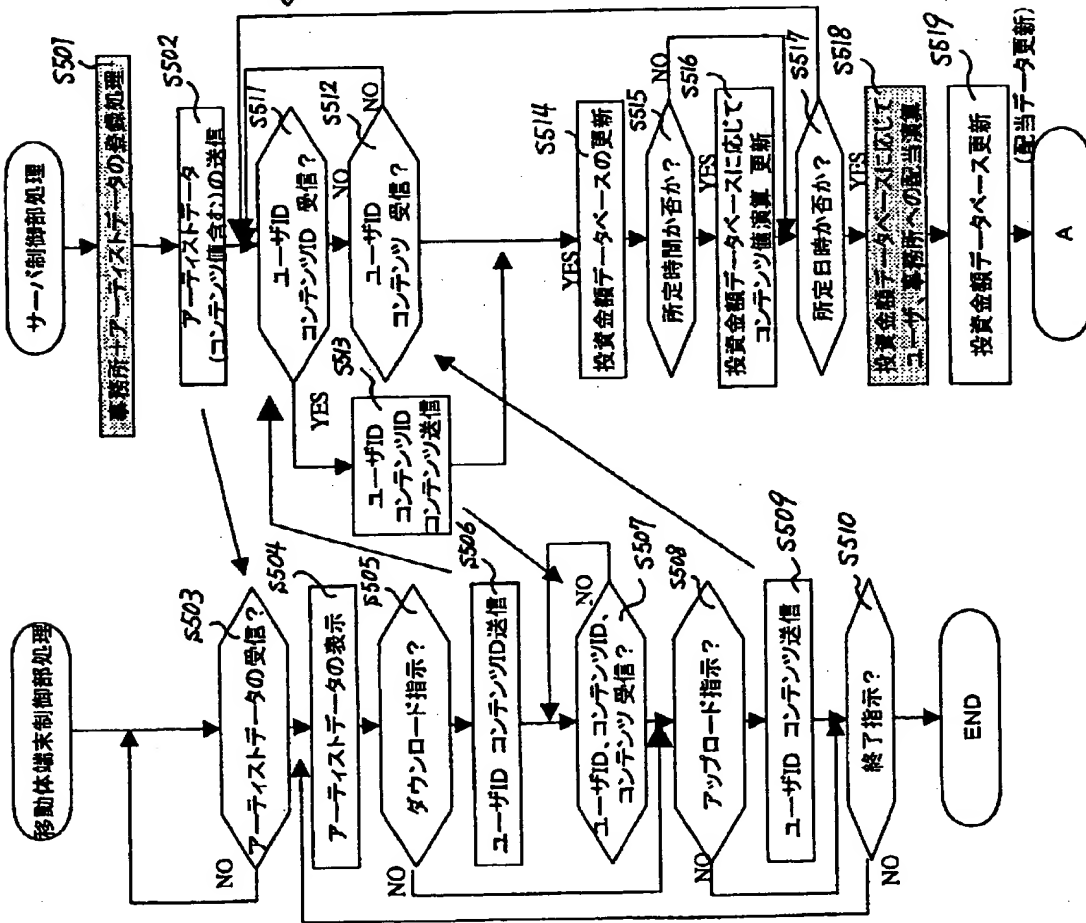
【図 3 1】



【図 3 2】



※売買データ、配当データなどは一括で
課金処理される例



【図33】

サーバID	アーティストID	コンテンツID	コンテンツ値	ユーザID	ダウンロード数	アップロード数	売買合計	サーバ利益
事務所ID	MIKE	AAA	100	A123B	1	0	100	260000
〇〇〇事務所				A325B	2	1	100	
				A457C	5	1	400	
					2	2	0	
	CAR	AAA2	120	B875D	2	1	200	
	CAT	BBB	200	D451A	2	0	2000	
△△△事務所		CCC	1000	F719B	2	0		

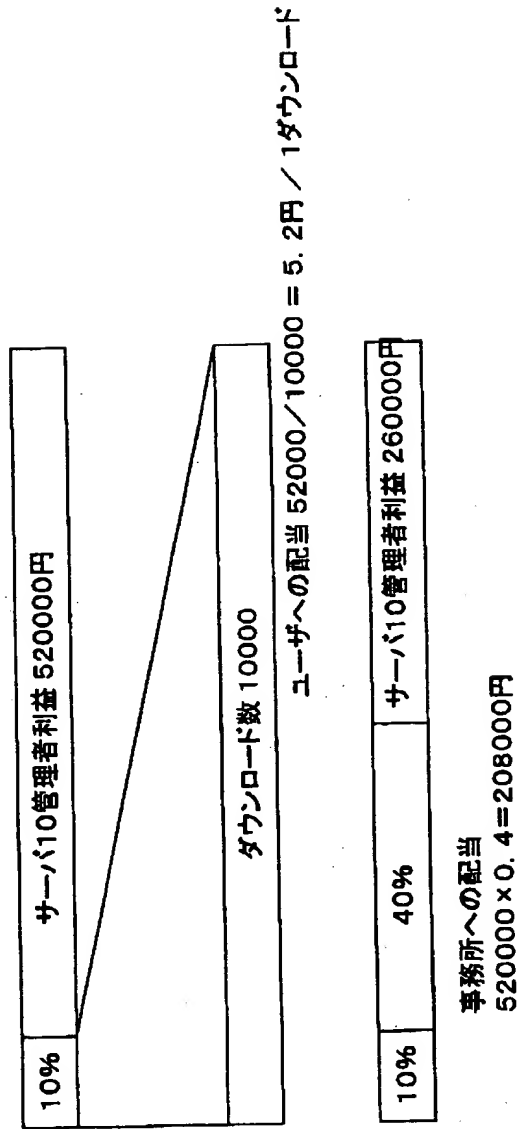
(A)

ユーザ配当	事務所配当	ユーザ口座用鍵	事務所口座用鍵	サーバ口座用鍵
1	200000	k1	X1	Se
1		k2		
4		k3		
0		k4		
10		k5		
100		k6	X2	

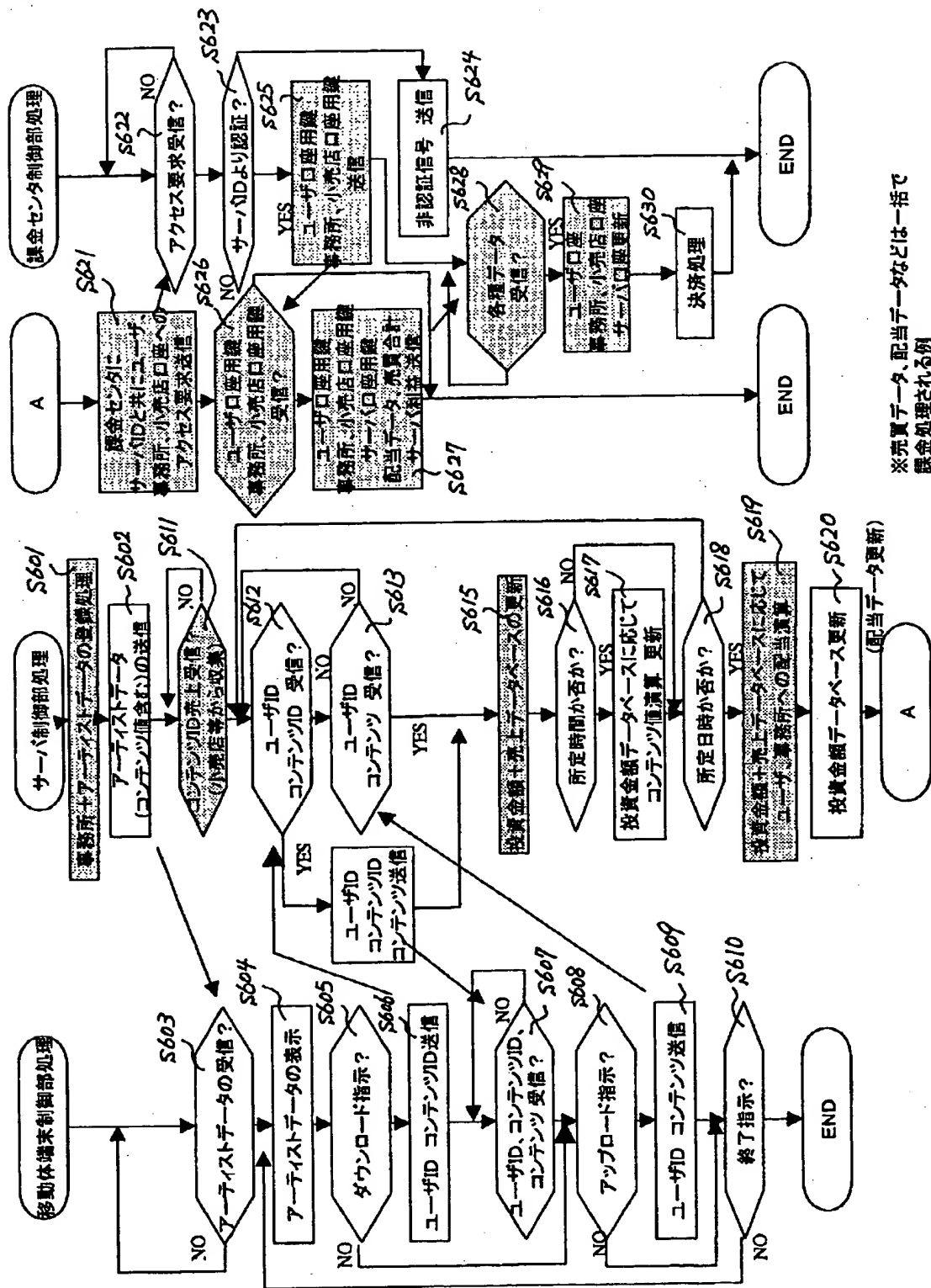
ID	銀行ID	口座番号	日付	出入履歴	残金	口座用鍵
A123B	〇△銀行	123456789	2000.02.10	10000	110000	k1
			2000.02.13	10000	120000	
			2000.02.15	-20000	100000	
			2000.02.15	-20000	80000	
			2000.02.18	-30000	50000	
			2000.02.20	-10000	40000	
△△△事務所	×■銀行	321456785	2000.02.05	-20000	100000	X2
			2000.02.13	-10000	90000	
SERVER1	△△銀行	548795431	2000.02.13	260000	260000	Se

(B)

【図 3 4】



【図 35】



【図36】

サーバID	アタシID	コンテナID	コンテナID	小売店ID	売上	ユーザID	ダウンロード数	アップロード数	売買合計	サーバ利益
000事務所	AAA	100red	100000	A123B	1	0	1	0	100	260000
		yellow	150000	A325B	2	1	1	1	100	
		blue	10000	A457C	5	1	1	1	400	
	AAA2	120	0	B875D	2	2	2	2	0	
CAR	BBB	200brown	20000	D451A	2	1	1	1	200	
AAA事務所	CCC	1000black	120000	F119B	2	0	0	0	2000	

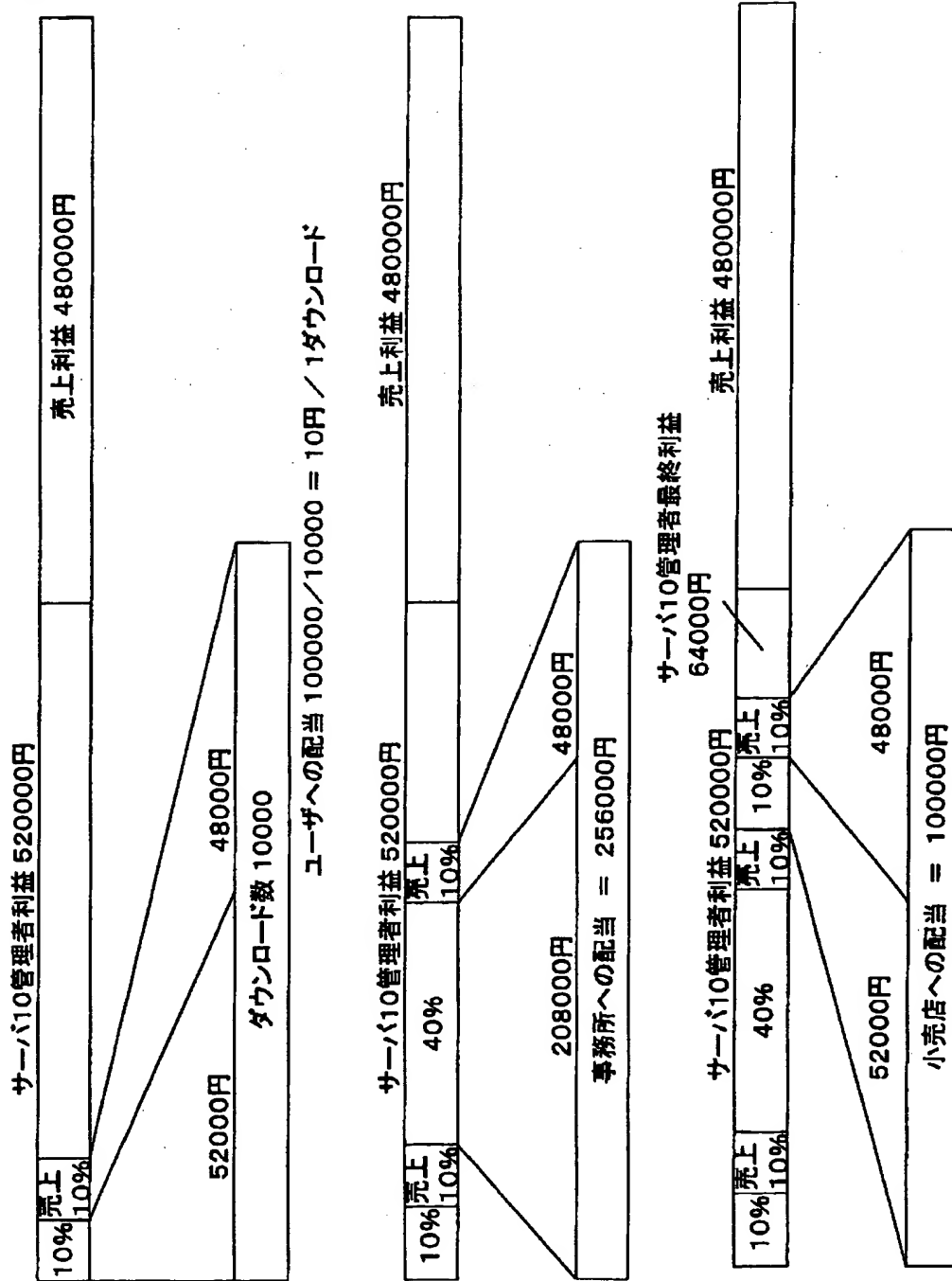
(A)

ユーザ配当	事務所配当	小売店配当	ユーザ口座用鍵	事務所口座用鍵	サーバ口座用鍵	小売店口座用鍵
1	200000	1000k1	X1	Se	Y1	
1		1500k2			Y2	
4		100k3			Y3	
0		0k4			Y4	
10		200k5			Y5	
100		1200k6	X2			

ID	銀行ID	口座番号	日付	出入履歴	残金	口座用鍵
A123B	Q△銀行	123456789	2000.02.10	10000	110000k1	
			2000.02.13	10000	120000	
			2000.02.15	-20000	100000	
			2000.02.15	-20000	80000	
			2000.02.18	-30000	50000	
			2000.02.20	-10000	40000	
△△△事務所	x■銀行	321456785	2000.02.05	-20000	100000X2	
			2000.02.13	-10000	90000	
red	△◎銀行	321456785	2000.02.06	-20000	100000Y1	
			2000.02.13	-10000	90000	
SERVER1	△△銀行	548795431	2000.02.13	260000	260000Se	

(B)

【図37】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 音楽、漫画、絵画、小説、映画等のコンテンツを制作するアーティストに対してコンテンツ（作品）を投稿できる場所を提供するのみならず、コンテンツの販売をする際に通常の課金処理と投資を可能とした投資目的個人の課金処理をコンテンツ購買者に選択させる。

【解決手段】 投資対象データを蓄積するサーバ装置と、サーバ装置にアクセスして、投資対象データをダウンロードするとともに、利用者の操作に応じた投資データをサーバ装置に送信する第1の端末装置と、投資対象データをサーバ装置にアップロードする第2の端末装置を備え、サーバ装置は、第2の端末装置からアップロードされてきた投資対象データを蓄積する。

【選択図】 図1

【書類名】 手続補正書

【提出日】 平成12年 6月 5日

【あて先】 特許庁長官 殿

【事件の表示】

【出願番号】 特願2000- 81859

【補正をする者】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代表者】 出井 伸之

【代理人】

【識別番号】 100067736

【弁理士】

【氏名又は名称】 小池 晃

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許願

【補正対象項目名】 発明者

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社
内

【氏名】 石井 美留香

【その他】 訂正の理由 本件出願に係る願書の発明者の欄に記載される発明者を訂正するに至った原因は、出願人より示された発明報告書には「石井 美留香、丹下 明」の氏名が記載されていたために、本件願書を電子情報処理組織において入力するに際し、この記載に基づいて出願手続を行ったことに起因するものです。 しかしながら、今般出願人より、本件願書に記載されるべき真の発明者は

、同日付で提出する手続補足書に添付した宣誓書からも
明らかな通り「石井 美留香」1名である旨の連絡を受
けました。そこで、本件願書の発明者の欄の記載を上
記の通り、正しい発明者である「石井 美留香」に訂正
いたします。 特許出願番号：特願 2 0 0 0 - 0 8 1 8
5 9 発明の名称：投資システム

代理人 弁理士 小池

晃

【プルーフの要否】 要

特 2000-081859

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2000-081859
受付番号	50000696755
書類名	手続補正書
担当官	喜多川 哲次 1804
作成日	平成12年 7月11日

<認定情報・付加情報>

【補正をする者】

【識別番号】

000002185

【住所又は居所】

東京都品川区北品川6丁目7番35号

【氏名又は名称】

ソニー株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】

100067736

【住所又は居所】

東京都港区虎ノ門2-6-4 第11森ビル 小
池国際特許事務所

【氏名又は名称】

小池 晃

次頁無

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日	1990年 8月30日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都品川区北品川6丁目7番35号
氏 名	ソニー株式会社

THIS PAGE BLANK (USPTO)